特定非営利活動法人 よこはま里山研究所

第 19 期(2018 年 7 月～2019 年 6 月)通常総会

議案書

・第 1 号議案　第 18 期(2017 年 7 月～2018 年 6 月)事業報告
・第 2 号議案　第 18 期(2017 年 7 月～2018 年 6 月)決算報告
・第 3 号議案　第 19 期(2018 年 7 月～2019 年 6 月)事業計画
・第 4 号議案　第 19 期(2018 年 7 月～2019 年 6 月)予算

日時:2018 年 8 月 26 日(日)16:00～17:30

場所:はまどま(横浜市南区宿町 2-40-119)

第１号議案　第 18 期事業報告（2017 年 7 月～2018 年 6 月）

第 18 期は、主催事業への参加者数が全体で 2,241 名となり、この 3 年間は 2,000 名余りでであまり変化していない（第 16 期 2,144 名→第 17 期 2,111 名）。内訳をみると、「まちの近くで里山をいかすシゴトづくり」「もったいないから竹細工」「竹細工ワークショップ」が増加し、「森と畑と音楽と」「はまどま手習い塾」「里山の恵み・伝統文化と出会う上映会」などが減少傾向にある。

「はまどまプロジェクト」については、外部講師を招いて共催事業とする「はまどま諸々」が多様に開催されたが、全体的には個別の企画内容は良くても、竹細工事業以外、集客につなげられなかった。この数年間、同じ課題が解消されずに残っているので、「はまどま」の運営体制の改善や施設的な改修なども含めて見直す時期と考え、関わりの深い関係者に呼びかけて、2 月に「はまどまの今後、NORA の未来を考える集い」を開き、その後も話し合い（寄り合い）を続けている。さいわい、多くの地域のキーパーソンが寄り合いに集い、建設的に意見を交わすことができ、第 19 期の「はまどま改革」に向けて良い準備をすることができた。

竹細工事業については、補助金収入がなくなったことから、収益性を高める取り組みを進めた。近年、参加者数は安定しており、また、参加者の定着率を上げるために企画内容を改善して、リピーターも増加してきた。6 月に初めて展示販売会を開催するなど、次々と新たな企画に取り組むことができている。

「まちの近くで里山をいかすシゴトづくり」は、プロジェクトを開始して 2 年が経過し、ウェブサイト「里山コネクト」の開設、新団体「モリダス」の設立など、具体的な展開が生まれてきた。しかし、運営資金を寄付金に依存していることから、自立化に向けてさらなる取り組みが必要である。

一方、運営スタッフの平均年齢は高まっていることから、スタッフ募集や連携先の開拓、資金調達も含めた、中長期の事業計画を策定することが必要となっている。財務的には、受託事業収入・助成金が予算よりも増えたことから 4 期連続で黒字となり、中長期的な目標に向けて動ける資金が蓄えられた。第 18 期を後からふりかえると、「はまどま改革」を含むサードステージへの移行を模索し始めた時期となるかもしれない。

自主事業

里山（樹林地や農地等）の保全・活用、里山と人をつなぐ活動

１．ヤマ事業（協力：プルデンシャル生命保険株式会社）

１）NORA の山仕事

川井特別緑地保全地区（旭区下川井町）において、「森の中で憩える空間」づくりを継続的におこなっており、第 18 期は、間伐後に放置して腐食した材の回収や焼却処分を積極的に実施した。毎月第 2・第 4 日曜日の定例活動の参加者数はのべ 211 名（昨期 222 名）、それ以外に補足的に林内環境を整備する「やま守り編」はのべ 77 名（昨期 93 名）と、昨期よりもやや減少した。しかし、作業デッキが完成し、遊歩道も新設して、「憩える空間」づくりを充実させることができた。また、今期も東洋ガラス機械株式会社から参加者があり、地元企業との連携も継続している。

来期は、将来的にリーダーを担える人材の育成や苗場の整備を進め、若い世代の定着率を向上させたい。また、家具職人を招いて「間伐材を使った椅子づくり」など新しい取り組みも検討している。

実施日	活動内容	参加者	スタッフ
7/9（日）	下草刈り、製材	5	1
7/23（日）	下草刈り、丸太皮むき、焼き丸太作り、製材	7	1
8/13（日）	丸太の皮むき、製材、腐食材の移積	9	1

8/27（日）	下草刈り、製材、板材加工、丸太皮むき	11	1
9/10（日）	下草刈り（竹林）、丸太皮むき、製材、板材加工	5	1
9/24（日）	丸太皮むき、板材加工、立枯れ木除伐	7	1
10/8（日）	丸太皮むき、板材加工、焼き丸太作り	9	1
11/12（日）	薪材の玉切り、薪割	4	1
11/26（日）	常緑樹除伐、針葉樹間伐	6	1
12/10（日）	針葉樹間伐、遊歩道新設、焚火（腐食材焼却）	11	1
12/24（日）	針葉樹間伐、腐食材焼却、遊歩道整備、立枯木・掛木除伐	13	1
1/14（日）	針葉樹間伐、常緑樹除伐、間伐材移積、安全技能研修	8	1
1/28（日）	腐食材移積、常緑樹除伐	9	1
2/11（日）	安全技能研修振り返り、針葉樹間伐、常緑樹除伐（苗場奥のり面）	7	1
2/25（日）	針葉樹の間伐、常緑樹除伐	10	1
3/11（日）	針葉樹間伐、常緑樹除伐（苗場奥のり面）、新遊歩道の整備	17	1
3/25（日）	チップ移設、菌コマ打ち、枯木除伐、間伐材移積	10	1
4/8（日）	枯木除伐、運材、草刈、チップ敷き	7	1
4/22（日）	安全研修、製材、苗場草取り、丸太皮むき	14	1
5/13（日）	製材、運材、林縁部草取り	6	1
5/27（日）	製材、運材、林縁部草取り	8	1
6/24（日）	間伐材移積	6	1
	※10/22（日）、6/10（日）雨天中止	189	22

【やま守り編】

実施日	活動内容	参加人数
7/2（日）、7/15（水）、7/29（土）、8/5（土）、8/19（土）、9/2（土）、9/16（土）、10/2（月）、10/5（木）、11/4（土）、12/3（日）、12/16（土）、1/6（土）、1/20（土）、2/3（土）、2/10（土）、2/19（月）、3/17（土）、3/19（月）、4/1（日）、4/9（月）、4/21（土）、4/30（月）、5/3（木祝）、5/6（日）、6/16（土）、6/17（日） 計 27 日	除草、下草刈り、落葉かき、つる外し、間伐枝チップ化、腐食剤移積・焼却、製材・板材加工、丸太皮むき、焼き丸太仕上げ、屋根躯体組立、デッキ手すり施工、土留め施工、土留め植栽、防鳥ネット掛け、安全研修など	77

※2/3（土）、安全技能研修 16 名、4/21（土）モリダス研修 10 名

２）竹を活かす山仕事（平成 29 年度神奈川県水源環境保全･再生市民事業支援補助金、セブンイレブン記念財団 2018 年度環境市民活動助成）

手入れが行き届かなくなった竹林は拡大し、農地や生活環境を侵食するなど、里山の景観に大きな影響を及ぼしている。竹林を手入れすることで畑を守り、里山生態系のバランスを保つために、原則月 1 回、中井町でお世話になっている農家と中井町の町有地で竹林を整備した。

第 18 期は、民有地において「もったいないから竹細工」で使用する竹材を伐り出し、町有地では竹林の間伐や常緑樹の除伐など竹林整備をおこなった。神奈川県の補助事業が 3 月で終了したことから、

町有地での活動は区切りをつけ、新たに民有地の竹林整備に取り組み始めた。参加者数は、のべ 99 名（昨期 94 名）とリピーターの定着を確認できた。

実施日	活動内容	参加者	スタッフ
7/16（日）	間伐、材の伐出	6	1
8/20（日）	マーキング、間伐・伐出	11	1
9/18（日）	間伐、下草刈り	10	1
11/5（日）	間伐、材の伐出　※10 月雨天延期分	9	1
11/19（日）	間伐、材の伐出	10	1
12/17（日）	間伐、材の伐出	8	1
1/21（日）	間伐、材の伐出	7	1
2/18（日）	間伐、材の伐出	9	1
3/18（土）	間伐、材の伐出	9	1
5/20（日）	間伐、材の伐出	10	1
	※4 月は雨天中止、6 月の活動は休み	89	10

３）よこはま里山レンジャーズ（連携：認定 NPO 法人自然環境復元協会（NAREC））

本事業は、里山保全活動を始めようとする主に若い世代と、活動支援を必要としている既存の活動団体とをつなぐマッチングプログラムである。本プロジェクトでは、NAREC の「レンジャーズプロジェクト」に登録したボランティア「レンジャー」（約 2,500 名）に対し、活動内容が調整されたフィールドから出動要請が発信され、参加を希望した「レンジャー」は参加希望メールを返信するだけで、活動に参加することができる。活動当日は、10～20 名程度のチームでレンジャーズリーダーの誘導のもと団体活動に参加するため、初めて参加する団体の活動であっても参加しやすいという長所がある。

6 年目を迎えた第 18 期は、NORA と関係の深い市内 6 か所のフィールドにおいて、8 回程度のレンジャーズ派遣を予定していたが、4 回の雨天中止があったため、実際には 5 か所 6 回の開催にとどまり、参加者数は 48 名（昨期 8 回実施、81 名参加）と減少した。30～40 代の参加者が増加傾向であり、受入団体や活動回数の増加が望まれるが、レンジャーズ活動を誘導するリーダーの人材不足により難しい状況にある。今後、レンジャーズ経験者等を対象としたリーダー研修を開催することが望まれる。

回	実施日	実施場所	受入団体	参加者
1	7/22（土）	新治の谷戸田	NPO 法人新治里山「わ」を広げる会	6
2	9/17（日）	川井緑地	よこはま里山研究所	雨天中止
3	10/28（土）	瀬上市民の森	瀬上さとやまもりの会	雨天中止
4	11/23（木）	恩田の谷戸	恩田の谷戸ファンクラブ	雨天中止
5	12/2（土）	瀬上市民の森	瀬上さとやまもりの会	5
6	12/16（日）	桜ヶ丘緑地	桜ヶ丘・水辺のある森再生プロジェクト	8
7	1/28（日）	川井緑地	よこはま里山研究所	雨天中止
8	2/11（日）	瀬上市民の森	瀬上さとやまもりの会	8
9	3/11（日）	川井緑地	よこはま里山研究所	7
10	5/26（土）	新治の谷戸田	NPO 法人新治里山「わ」を広げる会	6
				48

４）里山保全ボランティアの安全技能研修（平成 29 年度「緑の募金」公募事業、協力：株式会社かんぽ生命保険）

里山で活動するボランティアに対して、安全な活動を進めるために必要な知識や技術、作業グループにおける指導力修得などを目標とした研修会を開催した。第 17 期は若手や新人ボランティアを主な対象としたのに対し、第 18 期は NORA のベテランボランティアも研修会に参加した。参加者からは、作業の悪い癖の修正、作業手順や安全確認、安全用具の重要性を再認識できたなどと評価された。今後は、ベテランの安全に対する認識が深まったことで、活動全体の安全意識が高まっていくことが期待される。

回	実施日	実施場所	内容	参加者
1	11/25（土） 11/26（日）	青少年交流・活動支援スペース	安全を伝えるためのファシリテーション技術研修	7
2	1/14（日）	川井緑地	里手工具の安全な使い方と伐倒実習	10
3	2/3（日）	川井緑地	動力機械の安全な使い方と草刈り、伐木実習	15
4	4/22（日）	川井緑地	伐採した木材の玉切り、搬出、薪づくりなど	8
				40

５）山道具の安全使用（提携：株式会社シンコー）

株式会社シンコー社とサブ店契約を締結(2011 年 6 月)して、チェーンソーメーカー(スチール STIHL)の二次代理店業務を担い、環境に配慮し、より安全性を高めた緑地保全活動用の機材使用の啓発をすすめている。第 18 期は、関係する森づくり団体や山仕事の参加者などへ、良質なエンジンオイルや環境に配慮した生分解性のチェーンオイルなど環境と安全に配慮した物品類を供給することができた。実績としては、チェーンオイル等を販売したほか、耕運機、発電機等の修繕を扱った。

６）まちの近くで里山をいかすシゴトづくり（協力：株式会社かんぽ生命保険）

2016 年 4 月にプロジェクトを立ち上げて、現在、メーリングリスト[satowork]には 114 名が登録している。第 18 期は、ML 登録者をはじめ、里山の資源・空間をいかした社会的起業やライフスタイルの実現に関心のある層を対象にして、次のとおりゼミ形式、シンポジウム形式、ワークショップ形式などを織り交ぜてイベントを開催した。

実施日	実施場所	タイトル	参加者 ゲスト	スタッフ
10/9（月祝）	新治里山公園	第 2 回実践ゼミナール 「里山の恵み×ネットショップ」	13 5	3
10/21（土）	多摩市立ｸﾞﾘｰﾝﾗｲﾌﾞｾﾝﾀｰ	シンポジウム「環境ボランティア活動を楽しく「安全に」すすめるルールづくり」	26 4	2
11/9（木）	地球環境ﾊﾟｰﾄﾅｰｼｯﾌﾟﾌﾟﾗｻﾞ	環境倫理ゼミナール 01 「カセギに流されないシゴトづくり―実践の現場から考える都市生活のあり方」	46 3	3
12/23（土）	新治里山公園	第 3 回実践ゼミナール 「自然体験・環境教育プログラム」	23 4	3
1/27（土）	技能文化会館	まちの近くの里山をいかすシゴトづくりフォーラム～森の価値を高めるアプローチ最前線	35 4	3
			163	14

(1) テーマ別実践ゼミナール

2016 年 10 月に薪炭・里山バイオマスをテーマにして第 1 回を開催したのに続き、第 2 回は「里山の恵み×ネットショップ」、第 3 回は「自然体験・環境教育プログラム」をテーマに開催した。

第 2 回の話題提供者には、上島裕美子さん（グランマーマのお針箱、「ビブバブ bib-bab」）、榊啓子さん（NPO 法人 NPO フュージョン長池、「さといち」）、宮地知之さん（公益財団法人神奈川県公園協会、「木の実木のまま」）、大場龍夫さん（（株）森のエネルギー研究所、「森のいいこと」）を、コメンテーターには金子幸恵さん（「kane-kobo」）を迎えた。各ゲストの話が失敗談も含めて具体的で参考になり、アンケートは「とても良かった」「良かった」合わせて 100%だった。

第 3 回の話題提供者には、塚原宏城さん（一般社団法人まちやま）、田中拓哉さん（一般社団法人八王子協同エネルギー）、前田朋英さん（ごかんたいそう）、特別ゲストに川嶋直さん（日本環境教育フォーラム）を迎えた。自主事業と受託授業を対立的に捉えないこと、火と刃を使わせない公教育への批判、参加費の公平性とは何か、シゴトと暮らしのお金の入と出のバランスなどの論点が出た。

(2) 環境倫理ゼミナール

具体的な実践ゼミナールを補完するかたちで、理論的な内容を深める環境倫理ゼミナールを始めた。第 1 回は「カセギに流されないシゴトづくり」をテーマとして、小野淳さん（（株）農天気）、石田周一さん（（社福）同愛会 幸陽園農耕班）、コメンテーターに鬼頭秀一さん（星槎大学）を迎えて開催し、参加者には恵まれたが、論点を絞ることが難しかったので、今後も議論していく必要がある。

(3) シンポジウム「環境ボランティア活動を楽しく「安全に」すすめるルールづくり」

2016 年 10 月に開催した公開研究会「里山を保全する持続可能な仕組みづくりに向けて」を受けて、さらに実践的な内容でシンポジウムを企画開催した。話題提供者には、赤羽誠さん（多摩グリーンボランティア森木会）、伊藤道男さん（NPO 法人ちば里山センター）、松井一郎さん（NPO 法人森づくりフォーラムォーラム、森づくり安全技術・技能全国推進協議会）、コメンテーターに松本武さん（東京農工大学）を迎えて議論を深めることができた。ここで問題意識を共有できたことにより、横浜と多摩の森づくりに関わるメンバーが中心となってモリダス設立へとつながった。

(4) まちの近くの里山をいかすシゴトづくりフォーラム

2016 年に始めてから 3 年目となるフォーラムで、森のようちえん、皮むき間伐、森林環境教育・木育、CSR 支援活動など、森の価値を高めるアプローチの最新の情報を共有するために企画した。話題提供者には、鹿住貴之さん（認定 NPO 法人 JUON NETWORK）、竹垣英信さん（NPO 法人森のライフスタイル研究所）、三木一弥さん（森と踊る株式会社）、塚越暁さん（原っぱ大学）を迎え、森とかかわる収益事業が若い人や企業を巻き込みながら展開されている状況を共有できた。また、ゲストの個性が強かったこともあり、このイベントのキュレーションとしての価値が高く評価された。

7）モリダス運営支援

NORA の活動の発展形として、都市近郊の里山を市民協働で保全活用していく仕組みをつくるため、横浜・多摩地域で森づくり・里山保全に関わっている有志によって新団体「モリダス」を 2018 年 3 月に立ち上げた。「安全に楽しく価値ある」森づくり活動を広げていくために、森づくり安全技術・技能全国推進協議会（FLC）の地域協議会の一員として「森づくり安全技術・技能習得制度」の普及を図るほか、NPO 法人日本環境保全ボランティアネットワーク（JCVN）と連携しての研修や、横浜市森づくりガイドラインを活用したワークショップ開催などを進めていく。

2018 年 4 月 21 日（土）には、講師として水野雅夫さん（Woodsman Workshop）を招き、川井緑地で参

加者４名（内 NORA メンバー3 名）で「One Day Felling Training」研修を開催した。

８）よこはま森のアトリエ

横浜市旭区内の民有緑地について土地所有者より相談を受け、森の活用方法や地域住民との関わり等を整理するため、「ヨコハマ市民まち普請事業」（横浜市都市整備局）への応募を支援した。

２．ノラ事業

１）森と畑と音楽と

丹沢東麗に位置する厚木市の里山における活動で、2014 年からスタートした。活動の目的は農地管理が第一だが、参加者を増やすために「自然の中での様々な活動を通じて、幅広い年齢層、異分野の人々が集い、有機的に結びつく空間の創造」を目標として、この土地に多くの人が関心を持ち、活動に来ることが楽しいと思える活動をおこない、持続するシステムをつくりたいと考えている。

第 18 期は、これまでと大きく変わったことが 3 点挙げられる。①畑：これまでのフィールドが手狭になったため、新規に耕作放棄地を借りて野菜づくりをおこなった。また、キヌアやアマランサス、陸稲などの穀物も栽培したことが、一番大きな変化である。しかし、耕作放棄地のために想像以上に雑草が繁茂し、草刈り作業等の労力を要している状態である。②水田：昨年から米づくりを始めたが、今期は市内在住の 15 家族に対し、田植え、草取り、収穫（予定）の農作業体験を受け入れた。また、バインダー、乗用耕運機、脱穀機、籾摺り機等、稲作に関係する農機具を譲り受けるなどして充実を図った。③森：近隣の小学校で伐採されたクスノキを製材し、卒業制作のベンチ作りに協力した。また、近隣の中学校で伐採されたヒマラヤスギとサクラの木も製材し、美術の授業で箸作りの材料として提供することが決まっている。

活動日は計 63 日（16 期 77 日→17 期 72 日）で、週 1 日～2 日程度のペースで活動をおこない、のべ参加人数は 281 名（16 期 494 名→17 期 367 名）となった。今期も中学生や家族など多様な参加者が見られた。また、農作業機械の充実を図ることで省力化し、作業日数の削減につながった。

実施日		回	活動内容	参加数
7 月	1（土）、4（火）、21（金）、26（水）、30（日）	5	草刈り、草取り、収穫、BBQ、野菜苗植え 中学生農作業体験（エダマメ収穫）	16
8 月	3（水）、6（日）、16（水）、18（金）、27（日）	5	伐採樹木の搬出、草刈り、草取り、水やり、収穫、播種、野菜苗植え	12
9 月	3（日）、9（土）、10（日）、16（日）、18（月）、24（日）、26（火）	7	伐採樹木の搬出、草刈り、草取り、収穫、播種、BBQ、薪割り、竹伐り、中学生農作業体験（稲刈り）	17
10 月	1（日）、8（日）、9（月）、11（水）、23（月）、28（土）	6	稲刈りイベント（製材、クラフト、ピザ作り、ミニコンサート含む）、稲刈り、野菜収穫、播種、野菜苗植え、BBQ	69
11 月	3（金）、4（土）、11（土）、12（日）、19（日）、21（火）、23（木）、25（土）、26（日）	9	伐採樹木の製材、稲刈り、脱穀、籾摺り、精米、収穫（サツマイモ、ダイコン）、薪作り、BBQ	18
12 月	2（土）、3（日）、16（土）、18（日）、23（土）	5	伐採樹木の搬出、収穫（ハクサイ等）、播種、草刈り、BBQ	7
1 月	14（日）、21（日）、23（水）、28	4	新しい畑の整備、ベンチ製作、収穫	9

	（日）			
2 月	4（日）、11（日）、18（日）、25（日）	4	ベンチ製作、中学生クラフト体験、BBQ、樹木伐採、クラフト（キーホルダー作り）、テーブル制作、スモーク、田んぼの耕起	38
3 月	4（日）、11（日）、18（日）25（日）	4	地域の公民館祭り参加（出品、クラフト実演）、テーブル制作、水田耕耘、畦波板設置、堆肥鋤き込み	11
4 月	1（日）、8（日）、30（月）	3	テーブル制作、畑物置設置、野菜苗植え、収穫、用水路清掃、耕耘	10
5 月	5（土）、13（日）、16（水）、20（日）、23（水）、27（日）、30（水）	7	用水路清掃、草刈り、野菜苗植え・播種、田んぼの作業	20
6 月	3（日）、10（日）、16（土）24（日）	4	収穫、草刈り、水の引き込み・代掻き、田植え体験イベント（親子 33 名、中学生 15 名）	54
		63		281

持続可能な地域コミュニティづくり、暮らしの提案、イベントの企画・運営

３．ムラ事業

１）はまどまプロジェクト

2008 年 6 月に「はまどま」発足後、ちょうど 10 年が経過した。この間、街なかの里山の入り口、里山を暮らしに活かす実践の場として多様な企画を実現してきた。地域の方々の暮らしに役立つ場としても、宮宿花 1・2 丁目町内会、蒔田公園愛護会、大岡川アートプロジェクト「光のぷろむなぁど」実行委員会などに参加し、信頼関係を積み重ねてきた。しかし、「はまどま」の財政、運営ともに課題があり、次の段階への展開を検討し始めた。

(1) NORA 野菜市

毎週火曜日 17～19 時、大和ビル駐車場にて、神奈川県内・生産者限定の野菜市を開催し、14 年が経過した。この間、福島第一原子力発電所の事故による放射線汚染という重大な被害を経て、TPP/FTA などに加え、TPP を離脱した米国との貿易交渉次第で、日本農業は取り返しのつかない状態に陥る危機にある。日本の食料自給率はカロリーベースで 2 年連続 38%となり、農業の担い手の高齢化による生産基盤の弱体化が、天候異変において決定的に表面化した。国連は、家族農業こそ食糧安全保障を確かなものにすると「家族農業の 10 年」（2019～28 年）を策定した。将来にわたって持続可能な次世代につなげるべき農業は世界の食料生産の 8 割を担う家族農業であり、日本の、特に神奈川の農業の姿と重なる。しかし、生鮮野菜・果物の自給率を見ると、政府が掲げた目標の 8 割しかない。さらに、生鮮野菜・果物は、調理済みを購入する人が増える傾向にあり、特に輸入野菜が使われる可能性が高い。

日々の暮らしに欠かすことのできない食糧を、身近な交流できる生産者から得ながら、安心・安全な食糧生産ができる「環境」に暮らせることの意味を問い続けているが、子育て家庭の利用が盛んになってきている。また、横浜市内の自然農法・有機栽培生産者・生産者グループとの交流を始めることができた。「こども食堂」への農産物の提供も、3～4 か所へと本格化し、今後の取り組みへの大きな可能性、新しい展開への意欲をかきたてられた。

(2) 生産者の心とともに季節を味わう神奈川野菜の食事会

子ども食堂への農産物提供をきっかけとして、地域の方々が参加していることは特徴的であるが、各回の平均参加者数は少なくなっている。はまどま改修の検討の中から、これからの時代と地域に役立つ企画を工夫したい。

回	実施日	内容	参加者
4	9/16（土）	里芋御飯、冬瓜と卵のスープ・かぼちゃ煮物・蒸しナス	6
5	10/21（土）	鶏肉と野菜の炒煮・人参のポタージュ・茹で落花生	14
6	11/18（土）	サツマイモご飯・里芋とシイタケの煮物・太秋柿の酢の物	11
7	12/16（土）	人参鍋、サラダ（柿・レディサラダ・白菜・三浦大根）、きのこ	7
8	2/3（土）	丸鶏の野菜煮込み（大根・人参・ブロッコリー・椎茸）	12
9	3/3（土）	野菜のチラシ寿司、豆腐炒め野菜あんかけ、はるみご飯	6
10	4/7（土）	タケノコご飯、おからがんもどき、豆腐ふわふわスープ	8
11	5/14（月）	コンソメ味野菜汁、朝漬け、サラダ、かき揚げ、はるみ	6
12	6/2（土）	炒め物（トマト・きくらげ・卵のせ）、出汁漬け、サラダ	3
※回数は 108 回でリセットした			73

(3) もったいないから竹細工（平成 29 年度神奈川県水源環境保全･再生市民事業支援補助金、セブンイレブン記念財団 2018 年度環境市民活動助成）

里山では手入れされない竹林が生い茂って、邪魔物として扱われている。かつては有用だった竹を生かせないのはもったいない。そこで、竹林整備の際に出てくる竹材を有効に生かすために竹細工を製作している。毎月第 2 土曜日開催の竹かご教室では、講師に指導を受けながら、六つ目編みを基本とした竹かごを全 12 回で 7 作品をつくる。第 3 木曜・第 4 土曜日開催の竹細工工房では、竹かごを編むための竹ひごの準備のほか、竹へら・菜箸・パスタフォークなど（カトラリー）、さまざまな食器もつくる。

第 18 期は、竹細工工房では平日の参加者数が少しずつ増える傾向がみられた。竹かご教室では、申込み数にばらつきがあるものの、継続的に新規申込者を受け入れた。また、課題となっていた翌月の出欠連絡の受付方法を改善できたので、リピーターのストレスを軽減できた。参加者数は、竹かご教室がほぼ定員いっぱいののべ 166 名（昨期 135 名）となり、竹細工工房はのべ 253 名（昨期 264 名）で、合計の参加者数は 419 名（昨期 399 名）とやや増加した。

2017 年度末をもって神奈川県の補助事業が終了したので、収益性を高めていく必要がある。試みに、6 月 9 日（土）に「はまどま」にて、この活動に参加している有志により竹細工の展示販売会を開催した。7 名による作品 30 品以上が出展され、33,800 円を売り上げた。来期は助成金で竹剥機を 2 台購入するので、竹ひご加工の効率化を図るほか、実施日を増やすなどして改善を図りたい。

【竹かご教室】

実施日	活動内容	参加者	スタッフ
7/8（土）	竹かご作り	9	2
8/12（土）	竹かご作り	9	3
9/9（土）	竹かご作り	9	2
10/14（土）	竹かご作り	8	3
11/11（土）	竹かご作り	11	2

12/9（土）	竹かご作り	11	3
1/13（土）	竹かご作り	13	3
2/10（土）	竹かご作り	11	3
3/10（土）	竹かご作り	13	3
4/14（土）	竹かご作り	13	3
5/12（土）	竹かご作り	13	3
6/9（土）	竹かご作り	13	3
		133	33

【竹細工工房】

実施日	活動内容	参加者	スタッフ
7/20（木）	竹ひご作り、かご作り	5	3
7/22（土）	竹ひご作り、かご作り	12	3
8/17（木）	竹ひご作り、かご作り	8	3
8/26（土）	竹ひご作り、かご作り	8	3
9/21（木）	竹ひご作り、かご作り	7	2
9/23（土）	竹ひご作り、かご作り	7	3
10/19（木）	竹ひご作り、かご作り	7	3
10/28（土）	竹ひご作り、かご作り	5	3
11/16（木）	竹ひご作り、かご作り	8	3
11/25（土）	竹ひご作り、かご作り	7	3
12/21（木）	竹ひご作り、かご作り	9	2
12/23（土）	竹ひご作り、かご作り	6	3
1/18（木）	竹ひご作り、かご作り	4	2
1/27（土）	竹ひご作り、かご作り	13	1
2/15（木）	竹ひご作り、かご作り	7	2
2/24（土）	竹ひご作り、かご作り	9	0
3/15（木）	竹ひご作り、かご作り	8	0
3/24（土）	竹ひご作り、かご作り	11	0
4/19（木）	竹ひご作り、かご作り	10	1
4/28（土）	竹ひご作り、かご作り	16	3
5/17（木）	竹ひご作り、かご作り	6	2
5/26（土）	竹ひご作り、かご作り	14	2
6/21（木）	竹ひご作り、かご作り	17	2
6/23（土）	竹ひご作り、かご作り	14	2
		204	49

(4) はまどまで土間仕事

第 18 期も川口糀店を招いて、大和ビル会議室で味噌作りを開催したが参加者は少なかった。10 月は黒豆と麦麹という通常と異なる貴重な組み合わせだったが、「大豆と米糀の味噌なら参加するのだけど」と思惑が外れ、1 月の大豆と米糀の味噌作りでは、大豆が不作のため 20 人しか受け付けられなかった。しかし、これをきっかけに國光シェフがフレンチの会を開催されるようになった。全体的な回数は少なくなったが、新しいコンテンツが生まれたし、「はまどま」に足を運ぶ人のきっかけづくりはできた。

実施日	内　容	参加者	スタッフ
9/13（水）	甘酒を使ってカラダに効くごはん	6	1
10/22（日）	川口糀店さんと味噌作り～黒豆&麦麹	20	2
1/28（日）	川口糀店さんと味噌作り～大豆&米糀	18	2
6/3（日）	みりん作り WS	10	1
6/19（火）	緊急梅しごと WS	2	1
		56	8

(5) はまどま手習い塾

会員が主体的に得意なことを参加者に教えたり、興味のあることを参加者とともに学び合ったりするための活動であるが、第 18 期も参加者数は伸び悩んだ。

①季節の素材でワンプレートメイキング（山本美香さん）

毎回、できるだけ神奈川野菜を使用し、素材の味をストレートに味わえるメニューを考えている。NORA 野菜市からのお客さんを見込んでいるが、なかなか集客に結びついていない。早くからの積極的な広報と、ここで食べる野菜を NORA 野菜市で買えることをもっとアピールしていく必要がある。

実施日	内　容	参加者	スタッフ
8/8（火）	スイーツ夏編：夏野菜ピザ、ブルーベリータルト	6	2
10/3（火）	スイーツ秋編：ジャガイモのピザ、巨峰のケーキ	9	2
12/19（火）	冬のワンプレート：クリスマスケーキ、ポトフ	6	2
		21	6

②身近な素材で簡単おいしい薬膳ごはん（内倉和子さん）

参加者からの評価は高いものの、開催数・参加者数は伸びなかった。今までと少し違う視点からも薬膳を伝え、集客の改善を打ち出していきたい。

実施日	内　容	参加者	スタッフ
9/10（日）	不眠に効く薬膳（体内の熱を下げる）	4	2
1/14（日）	乾燥を補う薬膳（保湿薬膳）＋キムチ仕込み	6	3
5/7（日）	ストレスに良い薬膳（気の流れを良くする）	7	2
		17	7

③お香のてならい（粕谷恵さん）

開催回数は少なかったが、興味を持つ人は潜在的に多いはずなので、積極的に広報したい。

実施日	内　容	参加者	スタッフ
10/6（金）	塗香	1	1
10/13（金）	塗香	1	1

11/10（金）	お線香	1	1
11/19（日）	コーン型お香	2	1
		6	4

(6) 里山の恵み・伝統文化と出会う上映会（共催：郷土映像ラボラトリー）

民族文化映像研究所に約 130 本ある記録映画を中心とした上映会で、中川美帆さんが主宰する郷土映像ラボラトリーとの共催により、ほぼ月 1 回、定期上映している。「はまどまシアター」を改称して、インターネットの検索にかかるように配慮して「里山の恵み・伝統文化と出会う上映会」としたが、第 18 期の参加者数はのべ 40 名（昨期 63 名）にとどまり、集客に課題がある点は克服できていない。

実施日	作　品	参加者	スタッフ
7/23（日）	『トカラ―七つの島々』『甑島のトシドン』	2	1
9/3（日）	『竹の焼畑―十島村 悪石島のアワヤマ』	2	1
9/24（日）	『七島正月とヒチゲー』	3	1
10/15（日）	『西米良の焼畑』『八朔踊りとメンドン』	6	1
11/26（日）	『奄美のノロのまつり』『ボゼの出る盆行事』	2	1
12/3（日）	『川越まつり』『薩摩の水からくり』	3	1
1/14（日）	『旧岩沢住宅の復元』『新島の正月行事』	5	1
2/18（日）	『奥茂庭―摺上川の流れとともに』	5	1
3/18(日)	『奥会津の木地師』	3	1
4/23(月)	『豊松祭事記』	2	1
5/28(月)	『うつわ―食器の文化』	5	1
6/25(月)	『茂庭のくらし』	4	1
		40	11

(7) はまどま寄り合いライブ

横浜育ちのシンガーソングライターで会員の Choji は、三重県津市へ拠点を移し、里山暮らしを始めた。Choji は横浜に帰ってくると、「はまどま」で歌を聴かせてくれる。

実施日	内　容	参加者	スタッフ
8/29（火）	NEW アルバム『風と土』発売記念ライブ	14	6
3/18（日）	はまどま寄り合いライブ	18	7
		32	13

(8) NORA サロン

6 月 28 日（木）、会員の有川美紀子さんが書いた『小笠原が救った鳥―アカガシラカラスバトと 777 匹のネコ』出版記念トーク&ライブを開催、25 名が参加した。小笠原在住の鈴木創さん夫妻から野生動物の現状、有川さんから鳥を守るための野猫捕獲などの話を聞いた。食事は神奈川野菜たっぷりのご飯。

(9) はまどま諸々

会員が主体となる「はまどま手習い塾」のほかに、外部講師を招いて多様な企画を開催した。

実施日	内　容	外部講師	参加者	スタッフ
10/7（土）	季節の五行飯	清水八子さん	5	1

12/17（日）	季節の五行飯	清水八子さん	5	1
1/6（土）	書初めとおでんの会	渡邉真澄さん	6	1
1/20（土）	世界のサラダを神奈川野菜で	渡邉真澄さん	10	2
5/20（日）	猫ハウスを作ろう 1	鈴木春美さん	8	1
6/17（日）	猫ハウスを作ろう 2	鈴木春美さん	6	1
7/29（日）	猫ハウスを作ろう 3	鈴木春美さん	6	1
6/26（火）	自然モチーフの絵を描こう	浅野泰子さん	6	1
			66	9

２）はまどま改革

(1) 改修に向けた寄り合い

「はまどま」に関わりの深い NORA 内外の関係者に呼びかけて、「はまどまの今後、NORA の未来を考える集い」を開いた。地域×里山によって、南区の課題解決に繋げたいと考える人が多かった。第 19 期は、よこはま夢ファンドを通して集まった寄付金を活用して、改修工事を実施する予定である。

回	実施日	内　容	参加者
1	2/10（土）	「はまどま」の現状を伝え課題を共有	20
2	3/31（土）	里山×まちの可能性を考える	14
3	4/14（土）	具体的な空間のリニューアルの検討	18
4	5/12（土）	子ども食堂の可能性、具体的な改修イメージづくり①	14
5	6/3（日）	子ども食堂の可能性、具体的な改修イメージづくり②	10

(2) はまどまオープン

事務局スタッフ不在のため、イベント開催時以外に「はまどま」を開いていなかったが、6 月から月に 3～4 回程度、午前中概ね 9 時～12 時の間、オープンすることにした。「はまどま」を開くことで、活動に興味を持ってもらうようアピールしたい。

オープン実績：6/7(木)、6/15 日(金)、6/18 日(月)

３）地域連携

・神奈川県内生産者の協力による「子ども食堂」への農産物無料提供が本格的に始まった。睦地域ケアプラザを利用して開催する「わいわい食堂」（第 3 土曜日）に加え、2018 年 4 月からは「コドイチ」（第 2 土曜日）が始まり、フォーラム南太田では「みなみーな」（隔月）が 2018 年 7 月から再開した。
・8/18（金）、「はまどま」で盆踊りの練習とカレー食事会 10 名参加。
・8/19（土）～20（日）、蒔田公園で隔年の盆踊り大会開催。流し素麺の樋を作るため、柏木圭介さんの竹林から竹を寄付。盆踊りに NORA 仲間 6 名参加。「浜っ娘音頭」（作詞曲：Choji）も櫓で踊る。
・9/30（日）、南太田小学校おやじの会の流し素麺に、小沢幸雄さんの竹を提供。
・10/15（日）、フォーラム南太田まつりに野菜市で参加。服部典子さん、柏木洋子さん参加。
・10/29（日）、宮宿花 1・2 丁目町内会「ハロウインパーティー」に参加。
・12/9（土）～10（日）、大岡川アートプロジェクト「光のぷろむなあど」開催。「光の竹小屋＝はまどまが蒔田公園にやってきた！」として、9 日に小屋を製作するも翌日の強風にて倒壊。急遽テントを建てて 10 日のワークショップを開催。コスメづくり、藁細工、お香づくり、紙芝居も上演、神奈川野菜ポタージュ 2 種を販売した。スタッフ人数は 2 日間でのべ 9 名と少ないことが課題である。

・1/13（土）、フリースペースみなみ（横浜市南区）で子どもたちの新年会を開催。三好が紙芝居、宮宿花 1・2 丁目町内会は「蒔田かるた」で参加。
・2/17（土）、蒔田公園子ども体験イベント「ワンデイキッズパーク」に三好が紙芝居で参加。
・3/25（日）、子ども会のお楽しみ会で、三好が紙芝居「なめとこ山の熊」で参加。
・5/5（土）、地域の方々と蒔田公園でピクニック。総勢 10 名、NORA から 3 名参加。

4）関連する活動

・NORA 野菜市を通して育った企画として、8 月第 1 土曜日に定例開催する「ブルーベリーの摘み取りと流し素麺」がある。柏木家主催による生産者との交流会であり、NORA 会員がスタッフとして応援している。2017 年 8 月 5 日（土）に開催し、概ね大人 25 名、子ども 25 名が参加した。
・同様の企画「みかんの収穫作業お手伝い」は、数年間中断していたが復活させ、毎年 12 月第 1 土曜日に定例開催することにした。2018 年 12 月 2 日（土）は、4 名が参加した。
・「春待ちコンサート」は 2 月 11 日（祝）を定例日として、柏木家前庭でおこなう Choji のコンサートであり、小田原梅まつり期間中で、隣家の枝野家とともに庭を一般公開、この日は流鏑馬もある。

5）ネットワーク

(1) まいたエコサロンの会

地域の環境活動拠点として横浜市と構成団体が協働して運営に関わっているが、「はまどま」活用の優先順位が高く、第 18 期も会合に参加できず、ほとんど活動しなかった。

(2) 横浜コミュニティカフェネットワーク（YCCN）

会合にはあまり出席できなかったが、YCCN 会員の「さくら茶屋」（横浜市金沢区）の見学＆食事会＆話を聞く会は参考になった。

4．ハレ事業

1）伊勢佐木町地モノ市

2017 年 11 月 12 日（日）、好天に恵まれ、イセザキモール 6 丁目で「地モノ市」を開催した（第 17 回エコイセザキ「エコイベント＆地モノ市」（主催：伊勢佐木町商店街、後援：中区役所））。11 月初旬は端境期が終わり、秋冬野菜の収穫が本格的に始まるはずなのだが、初めて参加した 2004 年当時と比べると、天候不順により農産物の収穫を予測することが年ごとに困難になっている。それでも、年一回とはいえ、毎年楽しみにして下さる方々をはじめ、神奈川の生産者が明らかな農産物に対する期待の高まりは 13 年前の比ではない。参加人数は、前日準備に 5 名、当日はのべ 20 名に達した。

里山の生物-文化の多様性保全に資する普及啓発、情報発信

5．イキモノ事業

1）旬の里山探訪

NPO 法人新治里山「わ」を広げる会／新治里山公園運営プロジェクトが「にいはる里山交流センター」で実施しているイベントへ広報協力するかたちでおこなっている。実施主体は上記プロジェクトの自然観察／インタープリテーション部会。第 18 期は 10 回計画して 9 回開催でき、のべ 184 人（昨期 9 回 176 人）の参加者数となった。

実施日	内容	参加者	スタッフ
7/5（水）	なんちゃってハイ句	15	2

9/6（水）	秋の七草・新治バージョン	16	2
10/4（水）	赤とんぼのかんさつ	21	2
11/1（水）	木の実のかんさつ	23	2
12/6（水）	おめでたい植物	17	2
2/7（水）	新治の鳥たち	18	2
3/7（水）	春の七草はいま	15	2
4/4（水）	春の小さな花たち	33	2
5/2（水）	シダ植物の魅力	26	2
6/6（水）	いろんな蝶を見てみよう	雨天中止	
	※8 月・1 月は休み。	184	18

２）トンボはどこまで飛ぶかフォーラム

当フォーラムは、京浜臨海部における生物多様性に配慮した緑地の質の向上を目的に、企業・市民団体・行政・専門家がそれぞれの立場で参加する集まりで、2003 年から活動を開始しており、NORA は 2015 年 1 月から参加している。第 18 期は、夏のトンボ調査等の活動に参加するほか、本牧市民公園、富岡総合公園、長浜公園の指定管理者である（公財）横浜市緑の協会が 7 月～10 月にかけて主催する「トンボとり大作戦」の運営を担った。「トンボとり大作戦」への子どもの参加者数は次のとおりであった。

実施場所	7 月	8 月	9 月	10 月	
本牧市民公園	15	15	35	15	80
長浜公園	4	1	雨天中止	雨天中止	10
富岡総合公園	15	12	10	5	42
	34	28	45	20	127

３）里山ガーデンに対する提言

(1) のらさんぽ「里山ガーデンへ『里山』を探しに行こう！」

5 月 3 日（木祝）、開園期間中の里山ガーデンで里山を探すイベントを開催、里山ガーデンについて考える機会を提供した。早朝に雨天だったことから 1 時間遅らせて開始。参加者は 15 名。Facebook で「#里山ガーデンで里山をさがしてみた」と検索すると、参加者が撮影した写真を見られるようにした。

(2) 「里山ガーデン」はこのままでいいの？

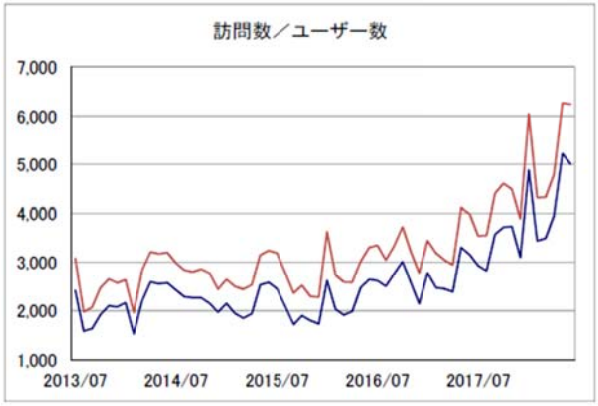
横浜市が里山ガーデンを含む「横浜動物の森公園未整備区域基本計画（案）」についてパブリックコメントを実施した（6 月 25 日～7 月 25 日）のをきっかけに、これまでの経緯と考え方を整理。HP や facebook を通して今後「里山の自然」「市民参加」等の検討を深めるように意見の提出を促した。

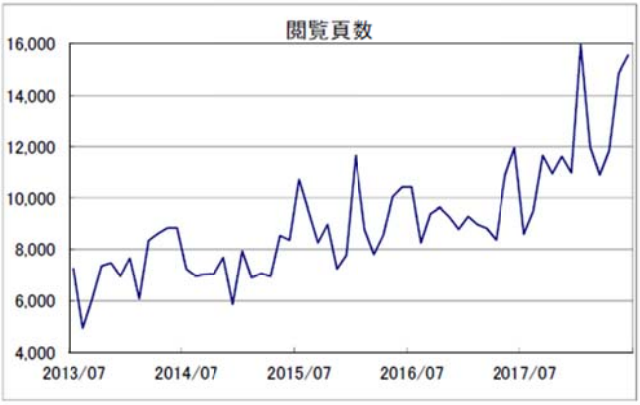
６．広報事業

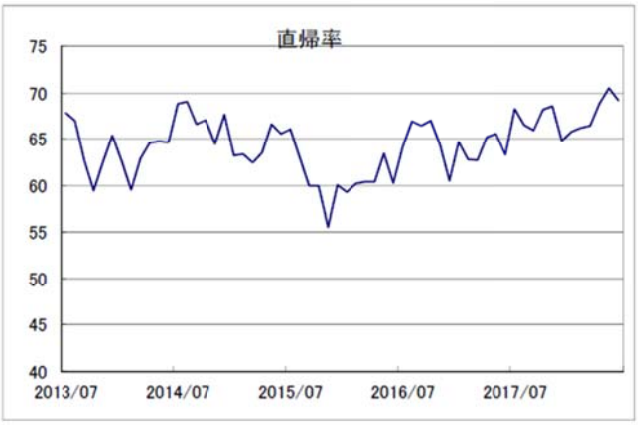
１）ウェブサイトの更新

第 18 期も、各プロジェクトの告知、報告記事のアップなど情報発信を定期的におこなった。毎月、メルマガと連動するプロジェクトの告知記事、コラムの更新は順調であるが、報告記事の更新はプロジェクトによって偏りが大きい。

訪問数が月平均 4,707（昨期 3,342）と約 40％も増加し、閲覧頁数も 12,027（昨期 9,507）と約 27%増加した。5～6 月の訪問者が増えたのは「里山ガーデン」の影響かもしれない。一方、滞在時間は 1:52（昨期 2:02）、直帰率は 67.0%%（64.5%）と悪化していることから、情報発信に工夫の余地は大きい。







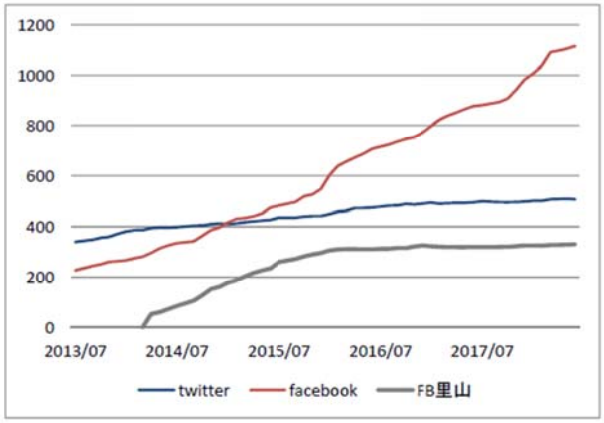
２）「里山と暮らしをつなぐメールマガジン」配信

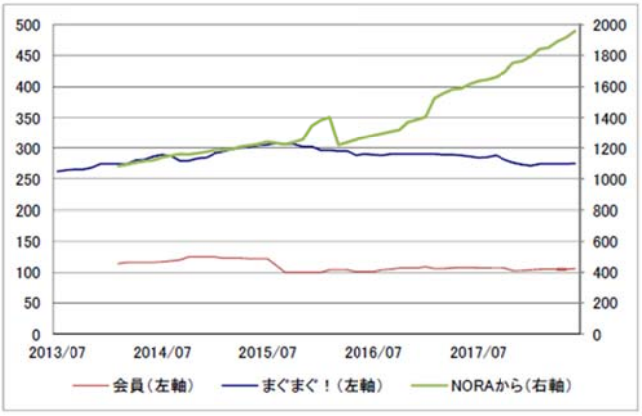
「里山と暮らしをつなぐメールマガジン」を毎月配信した（第 110～121 号）。会員（2018 年 6 月時点 106、以下同様）には会員メーリングリスト経由で配信し、事務局が把握している会友・関係者（1,959）には直接メールを送信している。また、メルマガ発行サービス「まぐまぐ！」でも配信しているが、読者数（275）は停滞・減少傾向にある。毎月、約 2,300 アドレスに情報を配信しており、日ごとのサイト訪問数はメルマガ配信後に毎回急増することから、依然として重要な広報媒体となっている。

３）ソーシャルメディアによる情報発信

ウェブサイトの更新よりも facebook による情報発信が活発になっており、「いいね！」の数は 1 年間で 878→1,116 と順調に増加した。イベントページのリーチ数が 20,000 を超えることもあり、広報媒体としての重要性が高まっている。

これに対して、twitter による情報発信は滞りがちで、フォローワーは 499→507 と微増にとどまった。facebook グループ「里山とかかわる暮らしを」では、各自のかかわり方を facebook に投稿・シェアして、里山とかかわる暮らしの普及を図っているが、メンバー数は 319→329 と、こちらも微増であった。





４）年間報告書の作成

2017 年末、「2017 年活動報告」（A4、三つ折り）を作成し、会員・会友へ配布した。自主事業等の 1 年間の活動を紙面で報告するとともに、年越し前に年会費振込みを促した。

５）ウェブサイト「里山コネクト」（協働：NPO 法人 NPO コミュニケーション支援機構）

2017 年 10 月～2018 年 1 月、関東 EPO に仲介者として、プロボノ集団 a-con（NPO 法人 NPO コミュニケーション支援機構）の有志メンバーと協働して、都市住民が近くの里山とつながるための広報プロジェクトを実施した。比較的順調にプロジェクトは進行し、2 月にウェブサイト「里山コネクト in 多摩・神奈川」を立ち上げることができた。活動団体のリンク集のような静的なサイトだが、アクセスした人が facebook で「いいね」を押すように誘導している。情報があまり更新されないので、時間が経過するにつれてアクセス数が減少しており、今後どう活用していくのかが課題である。

６）よこはま夢ファンドを通じた寄付キャンペーン

「街なかの里山の入り口」のための「はまどま」改修プロジェクト（目標額 50 万円）、「よこはま里山レンジャーズ」の基盤強化プロジェクト（目標額 30 万円）を立ち上げ、『よこはま夢ファンド」を通して NORA に寄付すると、少ない自己負担額で大きな支援ができる可能性があることを伝えた。2017 年 6 月時点で 1,225,600 円の寄付が集まっている。

協働・受託事業

里山に関する調査研究・コンサルティング・人材育成・講師派遣等

１）保育所・小中学校等ビオトープ整備のアドバイザー派遣（横浜市環境創造局みどりアップ推進課）

〈実施期間：2017 年 5 月～2018 年 3 月、2018 年 5 月～2019 年 3 月〉

平成 29 年度は、ビオトープを整備したか、整備を検討した横浜市内の小学校（新規 9 校、継続 1 校、フォローアップ 12 校）を訪問し、担当の教員等に対してビオトープ整備や維持管理方法、有効な活用方法等について指導した。平成 30 年度も引き続き、市内小学校等に対してビオトープ整備に関する指導を実施する。

２）長浜公園トンボ池等管理業務（公益財団法人 横浜市緑の協会）

〈実施期間：2017 年 4 月～2018 年 3 月，2018 年 4 月～2019 年 3 月〉

平成 29 年度は、長浜公園（横浜市金沢区）のトンボ池、水田等の市民を対象とした環境啓発、生物の生息空間の保全・創造のためのトンボ池等の日常管理を実施した。平成 30 年度は、引き続き、トン

ボ池や水田の適正管理、啓発事業として田植え体験や小学校の授業でのヤゴ救出の実施、「トンボとり大作戦」をとおした生き物調査などをおこなっている。

３）野島公園ビオトープ水路環境調査（公益財団法人 横浜市緑の協会）
〈実施期間：2017 年 4 月～2018 年 3 月,2018 年 5 月～2019 年 3 月〉
野島公園（横浜市金沢区）に設置されるビオトープ池について、多様な生物が生息できる空間への改善に向けた環境改善計画を提案するため、水環境、植物、水生生物調査を実施し、池の泥さらい、ビオトープ池への潮だまり空間の試作を行った。

４）Green Gift 地球元気プログラム（NPO 法人日本 NPO センター、東京海上日動火災保険株式会社）
〈実施期間：2017 年 10 月～2018 年 9 月〉
「Green Gift 地球元気プログラム」とは、東京海上日動火災(株)の「Green Gift」プロジェクトの一環として全国で展開されている環境保全活動である。2 年目となる第 18 期も小松・城北地区の里山を活動場所として、地元の「小松・城北」里山をまもる会の協力を得て、一般社団法人まちやま、関東 EPO、神奈川県、相模原市などと連携して春と夏に 2 回、親子向けの環境教育プログラムを実施した。毎回、定員を超える参加者に恵まれ、また、リピーターが増えて、参加者アンケートの評価も高かった。3 年目は、持続可能な環境保全の仕組みづくりに向けた準備、調整が求められる。

実施日	内容	参加者	スタッフ
6/17（日）	竹灯籠づくり＆ホタル観賞会	59	19
7/22（日）	竹の切り出しから体験！親子で流しそうめん	42	20
		101	39

５）竹細工ワークショップ
依頼に応じて竹の風ぐるまを作る体験型ワークショップを開催した。熱帯環境植物館では、午前の部の参加者が定員 20 名に対して 26 名、午後の部が定員 20 名に対して 26 名と好評だった。

実施日	実施場所	内容	依頼者	参加者
8/21（月）	長浜公園（金沢区）	竹の風ぐるま作り	(公財)横浜市緑の協会	(6 組) 9
9/19（火）	長浜公園（金沢区）	竹の風ぐるま作り	(公財)横浜市緑の協会	(4 組) 7
9/30（土）	板橋区立熱帯環境植物館	竹の風ぐるま作り	西武造園（株）	52
				68

６）『里山ガイドブック』制作
原稿を引き取り、再構成・校正し直したいが、着手できなかった。

委員・講師派遣等

１）委員
○松村正治
・横浜市市民協働推進委員会
－市民活動運営支援事業部会
・林野庁補助事業「森林づくり活動団体への実態調査・分析」検討委員会
○吉武美保子

・神奈川県里地里山保全協議会
・神奈川県自然環境保全審議会自然保護部会

２）講師・執筆

○石田周一
・『JA 広報通信』2017 年 1 月号～毎月「里山とかかわる暮らし」執筆　＜吉武と共同＞

○島村雅英
・11/14（火）川崎市麻生区の管理運営協議会及び公園緑地愛護会合同連絡会議でミニ講座
・2/20（火）豊かな体験を通した学びフォーラム 2018 参加
・6/19（火）新しい園芸を考える会総会で講演
・横浜市環境創造局出前講座「ビオトープで小さな生態系を感じてみよう」を 23 回（2017 年度中 18 回、2018 年度中 5 回）、のべ 1,744 名の児童に対して開催した。

回	実施日	学校名	学年	人数
1	7/7（金）	和泉小学校	3 年生	60
2	7/11（火）	永田小学校	6 年生	77
3	7/14（金）	青木小学校	6 年生	28
4	7/18（火）	寺尾小学校	全学年	680
5	8/10（木）	蒔田小学校	キッズクラブ	50
6	9/4（月）	黒須田小学校	6 年生	35
7	9/12（火）	石川小学校	6 年生	21
8	9/14（木）	新鶴見小学校	4 年生	36
9	9/15（金）	東山田小学校	5 年生	33
10	9/19（火）	美しが丘東小学校	6 年生	69
11	9/21（木）	笠間小学校	6 年生	30
12	10/3（火）	中尾小学校	5 年生	30
13	10/4（水）	洋光台第一小学校	6 年生	24
14	10/10（火）	日野南小学校	5 年生	32
15	10/11（水）	桂台小学校	3 年生	34
16	10/20（金）	吉原小学校	4 年生	40
17	11/1（水）	菅田小学校	5 年生	37
18	2/9（金）	捜真小学校	6 年生	60
19	6/4（月）	本郷小学校	6 年生	90
20	6/14（木）	川上北小学校	6 年生	150
21	6/14（木）	大豆戸小学校	5 年生	33
22	6/27（水）	折本小学校	3 年生	32
23	6/28（木）	和泉小学校	4 年生	63
				1,744

○松村正治
・8/11（金）「みんなで育む森づくりシンポジウム」（広島市）基調講演、コメント
・9/30（土）のづた「里山の家」2 周年記念で話題提供。
・2/3（土）グリーン連合「まちの近くの里山を未来へつなごう！」基調講演

・2/17（土）～18（日）「緑のボランティア活動助成セミナー2018」（国土緑化推進機構）報告
・5/12（土）台湾大学演習林関係者ほか23名の多摩丘陵里山視察をコーディネート
・林野庁補助事業「森林づくり活動におけるフィールド・資源の利活用事例調査報告」にて「日本の竹ファンクラブ」の事例を執筆

○吉武美保子
・10/7（土）、21（土）、11/11（土）　森づくりボランティア養成講座（横浜市環境創造局）
・10/15（日）、29（日）、11/3（金祝）、11/12（日）インタープリター養成講座フォローアップ研修（横浜市環境創造局）
・12/11（月）古橋の森（和泉の森を育む会）アドバイザー派遣
・12/16（土）シンポジウム「多摩川が造った地形の上に生きる」（明治大学応用植物生態学研究室）コメンテーター
・2/17（土）「多摩丘陵里山フォーラム」（(公財）東京都公園協会）全体講演
・3/21（水祝）シンポジウム「生田緑地と市民活動のあり方」（生田緑地マネジメント会議）討論者

３）そのほか

［取材・広報など］
・国土緑化推進機構が発行した冊子「森林・里山と人がつながる社会をめざして」（2017年7月）で、NORAの運営スタイルについて紹介された。
・5/12（土）『読売新聞』朝刊（神奈川版）「ただいま活動中」でNORAの活動が紹介された。

第２号議案　第18期決算報告（2017年7月～2018年6月）

活　動　計　算　書

［税込］（単位：円）

特定非営利活動法人よこはま里山研究所　　自 2017年 7月 1日　至 2018年 6月30日

【経常収益】			
【受取会費】			
運営会員受取会費	190,000		
一般会員受取会費	135,000		
賛助会員受取会費	10,000	335,000	
【受取寄付金】			
受取寄付金		1,645,759	
【受取助成金等】			
受取助成金		1,919,818	
【事業収益】			
自主事業収入	2,423,979		
販売事業収入	65,976		
受託事業収入	3,950,128	6,440,083	
【その他収益】			
受取　利息	73		
雑　収　入	398,920	398,993	
経常収益　計			10,739,653
【経常費用】			
【事業費】			
（人件費）			
人件費計	0		
（その他経費）			
業務委託費（事業）	3,890,959		
諸　謝　金（事業）	1,116,548		
印刷製本費(事業)	85,321		
会　議　費(事業)	6,000		
旅費交通費(事業)	48,710		
通信運搬費(事業)	9,038		
消耗品　費(事業)	2,052,198		
修　繕　費(事業)	111,659		
賃　借　料(事業)	134,648		
減価償却費(事業)	116,157		
保　険　料(事業)	89,525		
支払手数料(事業)	11,306		
広告宣伝費（事業）	34,720		
販売仕入（事業）	49,842		
その他経費計	7,756,631		
事業費　計		7,756,631	
【管理費】			
（人件費）			
人件費計	0		
（その他経費）			
業務委託費	100,000		
通信運搬費	94,431		
消耗品　費	65,172		
水道光熱費	139,745		
地代　家賃	972,000		
諸　会　費	22,604		
租税　公課	200		
その他補助	(200)		
支払手数料	31,126		
その他経費計	1,425,278		
管理費　計		1,425,278	
経常費用　計			9,181,909
当期経常増減額			1,557,744
【経常外収益】			
経常外収益　計			0
【経常外費用】			
経常外費用　計			0
税引前当期正味財産増減額			1,557,744
法人税、住民税及び事業税			74,500
当期正味財産増減額			1,483,244
前期繰越正味財産額			10,412,896
次期繰越正味財産額			11,896,140

貸　借　対　照　表

特定非営利活動法人よこはま里山研究所　　［税込］（単位：円）
全事業所　　2018年 6月30日 現在

資　産　の　部		負　債　・　正　味　財　産　の　部	
科　　目	金　額	科　　目	金　額
【流動資産】		【流動負債】	
（現金・預金）		未　払　金	693,437
小口　現金	149,788	前　受　金	200,000
普通　預金	11,946,720	納税充当金	74,500
現金・預金 計	12,096,508	流動負債　計	967,937
（売上債権）		負債合計	967,937
未　収　金	58,250	正　味　財　産　の　部	
売上債権 計	58,250	【正味財産】	
（その他流動資産）		前期繰越正味財産額	10,412,896
前払　費用	81,000	当期正味財産増減額	1,483,244
その他流動資産　計	81,000	正味財産　計	11,896,140
流動資産合計	12,235,758	正味財産合計	11,896,140
【固定資産】			
（有形固定資産）			
機械及び装置	312,739		
有形固定資産　計	312,739		
（無形固定資産）			
電話加入権	89,880		
無形固定資産　計	89,880		
（投資その他の資産）			
敷　　金	225,700		
投資その他の資産　計	225,700		
固定資産合計	628,319		
資産合計	12,864,077	負債及び正味財産合計	12,864,077

財　産　目　録

特定非営利活動法人よこはま里山研究所　　［税込］（単位：円）
全事業所　　2018年 6月30日 現在

《資産の部》

【流動資産】			
（現金・預金）			
小口　現金	149,788		
小口現金（吉武）	(7,150)		
小口現金（島村）	(20,258)		
小口現金（どま）	(78,950)		
小口現金（鈴木）	(43,430)		
普通　預金	11,946,720		
横浜銀行本郷台支店（本部）	(7,875,818)		
横浜銀行上大岡支店（吉武）	(603,017)		
横浜銀行阪東橋支店（ヤマ）	(183,188)		
横浜銀行阪東橋支店（島村）	(2,049,692)		
ゆうちょ銀行宿町（どま）	(196,438)		
ゆうちょ銀行振替	(1,038,567)		
現金・預金 計	12,096,508		
（売上債権）			
未　収　金	58,250		
売上債権 計	58,250		
（その他流動資産）			
前払　費用	81,000		
その他流動資産　計	81,000		
流動資産合計		12,235,758	
【固定資産】			
（有形固定資産）			
機械及び装置	312,739		
有形固定資産　計	312,739		
（無形固定資産）			
電話加入権	89,880		
無形固定資産　計	89,880		
（投資その他の資産）			
敷　　金	225,700		
投資その他の資産　計	225,700		
固定資産合計		628,319	
資産の部　合計			12,864,077

《負債の部》

【流動負債】			
未　払　金	693,437		
前　受　金	200,000		
納税充当金	74,500		
流動負債　計		967,937	
負債の部　合計			967,937
正味財産			11,896,140

第３号議案　第 19 期事業計画（2018 年 7 月～2019 年 6 月）

第 19 期は「はまどま」が満 10 年を迎え、プロジェクトへの参加者の広がりに限界が見られることから、空間デザインと運営体制を改革する。南区および近隣の公共機関、キーパーソンなどと話し合いを重ね、「はまどま」を一層開くことで「街中の里山の入り口」としての機能を高める。地域×里山により「里山とかかわる暮らし」を楽しむコミュニティづくりをすすめ、地域の社会課題の解決や価値創造につなげる。また、多摩・三浦丘陵群の里山を舞台に「はまどま」に加えて複数の拠点づくりを進め、さまざまな人・団体が、さまざまなやり方で活動に参加できる場を設け、ゆるやかなネットワークづくりを進めていく。

一方、2008 年改革の効果も薄れ、運営に関わる中心的なメンバーが固定化しているので、法人の運営体制と事業全体を見直し、資金調達も含めて、中長期の事業計画を作成する。その際、活動実績を蓄積してきた NPO 法人としての特徴を生かし、公益性と収益性を両立させながら自立的に活動を継続できる方策を考案する。NORA らしく「選択と集中」に頼らず、里山をモデルとして多様性と持続性を大事にしながら活動を展開し、「里山とかかわる暮らし」と「里山をいかすシゴトづくり」の輪を拡げていきたい。

自主事業

１．ヤマ事業

１）NORA の山仕事　｛別紙計画書のとおり｝

２）竹を活かす山仕事　｛別紙計画書のとおり｝

３）よこはま里山レンジャーズ　｛別紙計画書のとおり｝

４）里山保全ボランティアの安全技能研修　｛別紙計画書のとおり｝

５）山道具の安全使用

里山保全活動を安全かつ環境に配慮して進めることができるように、適切な機資材の販売、修繕を行う。

６）まちの近くで里山をいかすシゴトづくり　｛別紙計画書のとおり｝

７）モリダス運営支援

「安全に楽しく価値ある」森づくり活動を広げる「モリダス」と共催事業を実施しながら、団体運営を支援するとともに、NORA との組織上の関係を整理していく。

２．ノラ事業

１）森と畑と音楽と　｛別紙計画書のとおり｝

３．ムラ事業

１）はまどまプロジェクト

(1) NORA 野菜市　｛別紙計画書のとおり｝

(2)神奈川野菜の食事会　｛別紙計画書のとおり｝

生産者の心とともに季節を味わう神奈川野菜の食事会／NORA ちゃぶ

(3) もったいないから竹細工　｛別紙計画書のとおり｝

(4) はまどまで土間仕事　｛別紙計画書のとおり｝

(5) はまどま手習い塾　｛別紙計画書のとおり｝

季節の素材でワンプレートメイキング／身近な素材で簡単おいしい薬膳ごはん／お香のてならい

(6) 里山の恵み・伝統文化と出会う上映会　｛別紙計画書のとおり｝

(7) 新しい企画　｛別紙計画書のとおり｝

紙芝居と民話の部屋（仮）／大人の文庫 宮沢賢治再読（仮）／はまどまから行く森林浴（仮）

(8) そのほか

昨期同様、choji の寄り合いライブ、NORA サロン、はまどま諸々を開催する。

２）地域連携・ネットワーク

南区役所、宮宿花１・２丁目町内会、蒔田公園愛護会、フォーラム南太田、睦地域ケアプラザなど、蒔田地区周辺の公共機関・団体との連携を深める。また、まいたエコサロンの会、横浜コミュニティカフェネットワークの一員として、ネットワーク活動に協力する。

４．ハレ事業

１）伊勢佐木町地モノ市

2018 年秋、伊勢佐木町商店街のエコイベントに参加するかたちで「地モノ市」を開催する。

５．イキモノ事業

１）旬の里山探訪　｛別紙計画書のとおり｝

２）トンボはどこまで飛ぶかフォーラム

フォーラムの一員として、森里川海との連携を図り、生物多様性の保全に繋がる活動をおこなう。

６．広報事業

１）ウェブサイト更新・メールマガジン配信・SNS による情報発信

NORA のウェブサイトの更新頻度を上げ、月間閲覧頁数 15,000 以上となることを目指す。記事の掲載については、一部の会員に負担が集中しないよう役割分担を進める。ウェブサイトと連携しながら、定期的に「里山と暮らしをつなぐメールマガジン」を配信して、効果的に情報を発信する。また、SNS（twitter・facebook）を利用して、柔軟に迅速に情報を発信するとともに、ウェブサイトとの相乗効果を高める。

２）そのほか

2018 年末に活動報告書を作成する。「里山コネクト」を活用して、シゴトづくりにつなげる。

協働・受託事業

１）横浜市保育所･小中学校等ビオトープ整備等指導業務　｛別紙計画書のとおり｝

２）長浜公園トンボ池管理等業務　｛別紙計画書のとおり｝

３）野島公園ビオトープ池の環境改善提案に向けた生物調査　｛別紙計画書のとおり｝

４）Green Gift 地球元気プログラム　｛別紙計画書のとおり｝

５）そのほか

適宜、社会のニーズに応じて協働・受託事業を進める。また、ボランティア体験、インターンシップの受入は、可能な限り引き受ける。

委員・講師派遣

１）横浜市環境創造局の環境教育出前講座　｛別紙計算書のとおり｝

２）そのほか

行政・NPO・大学等からの求めに応じて、里山保全や市民活動等に関する委員・講師を派遣する。

『JA 広報通信』にコラム「里山とかかわる暮らし」を連載するなど、適宜、執筆依頼を受ける。

プロジェクト名	NORA の山仕事
カテゴリー	ヤマ
リーダー	下山康博
スタッフ	中林博志、大嶋邦佳
目的	・「利用する森」をコンセプトにして、手入れによって豊かな森をつくる ・森の恵みを様々なかたちで利用して、森とかかわる暮らしを横浜で実践する
目標	・林内に蓄積してしまった廃材の処理を促進させる ・苗場エリアの整備(山野草花壇の増設など)を進める ・湧き水エリアを整備する ・参加者が快適に森で作業できる環境を整える
内容	常緑樹の除伐や下草刈、落葉樹苗の育苗から定植など、豊かな森づくりを目標に作業を行っている。除伐した材を有効活用するために、丸太を製材しスツールなどの木工品を製作したり、薪などにも利用している。
日時	定例:第 2・第 4 日曜日／やま守り編:第 1・第 3 土曜日　実施時間 10:00～16:00
場所	旭区下川井町　特別緑地保全地区
年間スケジュール	10:00　川井緑地に集合　ミーティングを行い作業内容、使用する道具を確認 10:30　現場にて作業開始 12:00　昼食 13:00　作業開始 15:00　作業終了　道具の整備、活動の振り返りと予定を確認 16:00　解散
一般募集の有無	有 (NORA メルマガ・HP などの広報媒体で一般募集)
参加費の有無	グリーンボランティア保険加入料として　@500 円
収入見込額(a)	参加費　40,000 円 寄付金収入　183,000 円　かんぽ生命保険ほか 作業支援収入　30,000 円 資材販売収入　45,000 円 計　298,000 円
支出見込額(b)	グリーンボランティア保険　60,000 円　3,000 円×20 回 委託費　120,000 円　10, 000 円×12 か月 資機材購入費　50,000 円　ソーチェーンなど 消耗品費　68,000 円　燃料・工具修理等 計　298,000 円
収支見込額(a-b)	0 円
備考	
作成年月日	2018 年 8 月 23 日
作成者名	下山康博

■NORA 第 19 期プロジェクト計画書(2018 年 7 月～2019 年 6 月)

プロジェクト名	竹を活かす山仕事
カテゴリー	ヤマ
リーダー	下山康博
スタッフ	山口和美、宮原正樹
目的	・畑や水源林である山々を侵食する竹林の手入れを行なう ・竹林整備を行なうことで、恵ある里山の生態系を維持する ・整備活動によって排出された竹材を有効活用する
目標	・事業への継続的な参加者を募ると共に、運営を担えるスタッフを募る ・民有地の竹林整備を継続する ・良質な材を生産できる竹林を目標とし、整備を行う ・横浜市内で生産性を望める竹林を探す
内容	南足柄郡中井町にある竹林において、竹の間伐作業を行う。 切り出した竹は竹ひご作りの練習用に用いたり、カトラリーを製作する材料として活用する。
日時	毎月第 3 日曜日　10:00～15:00 ※3, 5, 7, 8, 9 月の伐り出し作業は無し
場所	南足柄郡中井町
年間スケジュール	9:00　京浜急行　上大岡駅集合(10:00　セブンイレブン下曽我店) 10:30　現地到着　作業開始 12:00　昼休み 13:00　作業再開 14:00　作業終了　材の積み込み 15:00　現地解散
一般募集の有無	有 (NORA メルマガ・HP などの広報媒体で一般募集)
参加費の有無	500 円
収入見込額(a)	参加費　42,000 円　500 円×8 人×7 回
支出見込額(b)	交通費　21,000 円　3,000 円×7 回 物品費　21,000 円 計　42,000 円
収支見込額(a-b)	0 円
備考	
作成年月日	2018 年 8 月 23 日
作成者名	下山康博

■NORA 第 19 期プロジェクト計画書(2018 年 7 月～2019 年 6 月)

プロジェクト名	よこはま里山レンジャーズ
カテゴリー	ヤマ
リーダー	島村雅英
スタッフ	よこはま里山レンジャーズプロジェクトメンバー(松村、下山、吉武、中林)
目的	・里山保全活動に新たなメンバーが加わり、環境活動団体の活性化を支援が図られる。 ・レンジャーズ活動が推進される。
目標	・レンジャーズを延べ 10 回、里山等保全活動に派遣する。 ・運営スタッフやレンジャーズリーダーとなりうる人材育成を行う。
内容	・事業所や指定管理者などからの活動資金提供を模索しながら、自然環境復元協会と連携して、レンジャーズ派遣を行う。 ・レンジャーズリーダー育成研修を開催するほか、リーダー行動マニュアルを作成する。
日時	・レンジャーズ派遣:月 1 回程度 ・レンジャーズリーダー育成研修の開催:10 月と 3 月 ・レンジャーズリーダー行動マニュアル整備:9 月～12 月
場所	レンジャーズ派遣先:恩田の谷戸、桜ヶ丘緑地、川井緑地、瀬上市民の森、有償サイト:新治の谷戸田、長浜公園、元町公園プール レンジャーズリーダー育成研修の開催:はまどま
年間スケジュール	レンジャーズ派遣:9 月～3 月、活動計画づくり 3 月、レンジャーズ派遣 4 月～7 月 レンジャーズリーダー育成研修の開催:10 月と 3 月 レンジャーズリーダー行動マニュアル整備:9 月～12 月
一般募集の有無	レンジャー登録会員対象、 1 回あたり 10～20 人 レンジャー登録は一般募集有、メルマガ・HP、自然環境復元協会からの呼びかけ リーダー研修は、レンジャーズ経験者より募集 各回 10 名程度
参加費の有無	レンジャーズ参加費、研修会参加費は無料
収入見込額(a)	有償サイトから事業収入 30,000 円 よこはま夢ファンド基金 300,0000 円 計 330, 000 円
支出見込額(b)	レンジャーズリーダー派遣 162,000 円 人件費(レンジャーズリーダー) 120,000 円 交通費 12,000 円 人件費(プロジェクト運営) 30,000 円 リーダー研修 88,000 円 講師報酬 80,000 円 事務用品費 8,000 円 マニュアル作成 80,000 円 印刷費(マニュアル作成) 20,000 円 人件費(マニュアル作成) 60,000 円 計 330, 000 円
収支見込額(a-b)	0 円
備考	レンジャーズ名簿管理:自然環境復元協会 受入れ団体:恩田の谷戸ファンクラブ、瀬上市民の森愛護会、にいはる「わ」を広げる会、桜ケ丘・水辺のある森再生プロジェクト、横浜市緑の協会、横浜にとんぼを育てる会

作成年月日	2018 年 8 月 19 日	作成者名	島村雅英

■NORA 第 19 期プロジェクト計画書(2018 年 7 月～2019 年 6 月)

プロジェクト名	里山保全ボランティアの安全技能研修
カテゴリー	ヤマ
リーダー	島村雅英
スタッフ	プロジェクトメンバー(松村、下山、吉武、中林)
目的	・参加者の安全意識が向上し、事故を未然に防ぐことができるようになる。
目標	・安全技術研修を4回開催する。
内容	・里山保全ボランティアの安全技能研修を開催する。
日時	①9/16-17、②2/3、2/10、③3/10、④4/14
場所	川井緑地他
年間スケジュール	第 1 回:9/16(日)-9/17(月祝)里山保全を安全に楽しく進めるための作業計画づくり 第 2 回:2/3(日)、2/10(日)手道具による伐木研修 第 3 回:3/10(日)チェーンソー入門研修(目立てと基本動作) 第 4 回:4/14(日)刈り払い機研修
一般募集の有無	有
参加費の有無	1,000 円/回
収入見込額(a)	緑の募金助成金 320,000 円 参加費 50,000 円 @1,000 円×50 人 計 370,000 円
支出見込額(b)	保険 15,000 円 @5,000×3 回 チラシデザイン・印刷 30,000 円 講師諸経費 190,000 円 謝金、交通費、宿泊費等 3 回分 会場費 20,000 円 事務費 65,000 円 資料等印刷、事務用品、スタッフ人件費 計 320,000 円
収支見込額(a-b)	50,000 円
備考	レンジャーズ名簿管理:自然環境復元協会 受入団体:恩田の谷戸ファンクラブ、瀬上市民の森愛護会、にいはる「わ」を広げる会、桜ケ丘・水辺のある森再生プロジェクト、横浜市緑の協会、横浜にとんぼを育てる会

作成年月日	2018 年 8 月 19 日	作成者名	島村雅英

■NORA 第 19 期プロジェクト計画書(2018 年 7 月～2019 年 6 月)

プロジェクト名	まちの近くで里山をいかすシゴトづくりプロジェクト
カテゴリー	ヤマ
リーダー	松村正治
スタッフ	島村雅英、吉武美保子
目的	・里山シゴトづくりに関する人や団体等のネットワークをつくる。 ・里山をいかすビジネスモデルと経済倫理を考える。 ・里山をいかすシゴトづくりのための仕組みづくりと環境整備をおこなう。
目標	・参加者数は全体で 180 名を目標とする(第 18 期 177 名)。 ・メーリングリスト登録者数を 150 名まで増やす(第 18 期末 114 名)。
内容	・シンポジウム1回開催:テーマは都市近郊の里山ガバナンス ・実践ゼミナール 2 回開催:テーマは木工・クラフト、自然体験・環境教育×ネット(予定) ・環境倫理ゼミナール1回開催:都市公園、緑地、農地の今後について ・リーダーズフォーラム1回開催:モリダス設立の目的を伝え、仲間を増やす ・シゴトづくりフォーラム1回開催:里山コネクト掲載団体の活動紹介とネットワークづくり ・リーダー養成研修用テキストの原稿作成
日時	休日および平日夜間
場所	新治里山公園、多摩グリーンライブセンター、地球環境パートナーシップオフィスなど
年間スケジュール	10～1 月:リーダー養成研修用テキストの編集・原稿作成 10 月～12 月:実践ゼミナール、環境倫理ゼミナール、シンポジウム 12/23:リーダーズフォーラム 1 月:シゴトづくりフォーラム
一般募集の有無	有
参加費の有無	有
収入見込額(a)	寄附金 730,000 円 (株)かんぽ生命保険から 自主事業収入 70,000 円 500 円×140 名 計 800,000 円
支出見込額(b)	人件費 150,000 円 謝金 350,000 円 業務委託費 200,000 円 旅費交通費 50,000 円 印刷費 20,000 円 雑費 30,000 円 計 800,000 円
収支見込額(a-b)	0 円
備考	株式会社かんぽ生命保険から寄付金を活用

作成年月日	2018 年 8 月 20 日	作成者名	松村正治

■NORA 第 19 期プロジェクト計画書(2018 年 7 月～2019 年 6 月)

プロジェクト名	森と畑と音楽と
カテゴリー	ノラ
リーダー	中川欅
スタッフ	
目的	・休耕農地を利用することで地域環境や農地を維持する ・参加者が一連の農作業を体験することで、野菜を育て収穫する喜びを体感する ・山仕事で出てくる木材の保管および製材・加工場所として活用する ・常時作付けが可能なように土地を管理する
目標	・準備運営に携わるスタッフの確保 ・事業への協賛者を増やす ・生産物の消費先(販路)の拡大 ・水田の効率的な利用方法を検討 ・伐採樹木の適切な利用方法を検討
内容	・農地管理(草刈り・草取り・耕耘) ・野菜の育成(作付け・施肥・防虫管理・収穫) ・収穫体験の実施 ・活動場所で採れた野菜を使った料理 ・林産物や伐採樹木の活用 ・子ども向け環境教育の実施 ・音楽会の実施 ・クラフト全般(おもに木工、電動工具も使用可)
日時	基本的に毎週日曜日 10:00～17:00 (土曜日活動になることもあり、要連絡)
場所	厚木市七沢 ・ 伊勢原市日向
年間スケジュール	7 月:収穫作業、草刈り、種まき、 8 月:夏野菜収穫、草刈り、畝作り、種まき・苗植え付け、水田草取り、こどもキャンプ受入 9～10 月:草取り、苗植え付け、種まき、収穫作業、稲刈り 11 月中旬:収穫祭 11～3 月:収穫作業、伐採したサクラ・ケヤキ・スギ等の利用、耕耘、クラフト 3 月:こども自然体験プログラム(川遊び・昼食作り) 4 月:種まき、中旬～下旬:草刈り、耕運、施肥 5 月:苗植え付け、種まき、草刈り・畝作り、水田のための用水路清掃 4～6 月:種まき、苗植え(サツマイモ)、草刈り 6～7月:田植え、田植え体験、田んぼの草取り
一般募集の有無	有 (NORA メルマガ・HP などの広報媒体で一般募集)
参加費の有無	有 ※プログラムによる
収入見込額(a)	年会費 20,000 円 @5,000×4 人 農業体験委託 30,000 円 参加費 20,000 円 @1,000×20 人回 計 70,000 円
支出見込額(b)	購入費 35,000 円 種苗 20,000 円、肥料 5,000 円、資材 10,000 円 借地料 20,000 円 地主 2 名へお礼 燃料代 10,000 円 ガソリン・オイル等 その他雑費 5,000 円 計 70,000 円
収支見込額(a-b)	0 円
備考	

作成年月日	2018 年 8 月 19 日	作成者名	中川欅

■NORA 第 19 期プロジェクト計画書(2018 年 7 月～2019 年 6 月)

プロジェクト名	NORA 野菜市		
カテゴリー	ムラ		
リーダー	三好豊		
スタッフ	村田幸恵、田島里美		
目的	・交流できる神奈川県内の生産者の作物を中心に、その利用を広げる。 ・身近な神奈川で生産できる作物を知らせる。 ・今後、予想される農業・食糧の危機に対処する意識の醸成をはかる。		
目標	・継続できる体制の工夫。 試食とポップを強化する。		
内容	神奈川県内の生産者の作物を販売しながら、農業・食糧に関わる情報の発信。		
日時	・毎週火曜日午後 5 時～7時 ・不定期開催で毎週土曜日午前 11 時～午後 1 時「在庫処分市」		
場所	大和ビル駐車場		
年間スケジュール	1 月は 2 週間休み。2019 年は 1 月 15 日から開始 8 月はお盆から月末まで休み 祝日は原則休み。		
一般募集の有無	無		
参加費の有無	無		
収入見込額(a)			
支出見込額(b)			
収支見込額(a-b)	はまどま運営費として、年間 300,000 円(月 25,000 円)を寄付する。		
備考			
作成年月日	2018 年 8 月 19 日	作成者名	三好豊

■NORA 第 19 期プロジェクト計画書(2018 年 7 月～2019 年 6 月)

プロジェクト名	生産者の心とともに季節を味わう神奈川野菜の食事会		
カテゴリー	ムラ		
リーダー	三好豊		
スタッフ	服部典子(作りたい人、随時募集)		
目的	・野菜市に出荷している生産者の野菜を使った食事会。 ・農業・食糧に関わる情報の提供・交換。 ・今後、予想される農業・食糧の危機に対処する意識の醸成を図る。		
目標	・動画や写真など映像での記録と公開。 ・代表的な献立のレシピ公開。 ・翌月の農産物情報 ・生産者と利用者のコミュニケーション密度を高める。		
内容	季節の農産物・特徴ある農産物を中心にした料理づくりを充実させる。おいしさの追求。		
日時	原則的に第 1 土曜日。午後 7 時食べ始め、午後 9 時閉会。 ただし、他の企画との関係で変更あり。		
場所	はまどま		
年間スケジュール	9 月 1 日(土)・10 月 6 日(土)・11 月未定・12 月未定・1 月未定・2 月 2 日(土) 3 月 2 日(土)・4 月 6 日(土)・5 月未定・6 月 1 日(土)		
一般募集の有無	有		
参加費の有無	有		
収入見込額(a)	参加費　100,000 円　1000 円×10 人×10 回		
支出見込額(b)	消耗品費　50,000 円 はまどま運営費　50,000 円		
収支見込額(a-b)	0 円		
備考			
作成年月日	2018 年 8 月 19 日	作成者名	三好豊

プロジェクト名	NORA ちゃぶ
カテゴリー	ムラ
リーダー	勝野真美
スタッフ	
目的	火曜日の野菜市に、野菜を買いに来た人、旬の野菜に興味がある人、ご飯を誰かと食べたい人、この野菜どうやって食べるの？な人、何か話をしたい人、旬の野菜をただ食べたい人が、その身とお酒と何か話題を 1 つ持って集まる。料理が好きで、話が苦手なママがお迎え。野菜の購入に結びつけることが目的。
目標	通常の食事会より少し自由で、少し気楽で、でも持って帰れるものは多めに。おいしいねを初めましての人と言い合う場を作ってみたい。顔見知りもいいけれど、自分の中を少し整理したいとき、こんな場所があるよ、話を聴いてくれる場所があるよって言いたい。参加した人が料理を作って逆にもてなしするのも、あり。そのツールが神奈川野菜で、その場所が「里山の入り口」で、今までとは少し違う世界で新しい仲間と会える、食べる、話す場を作る。
内容	旬の神奈川野菜を心ゆくまで食べ話す。日常の足りないものを、補給できる場にしたい。
日時	月1回、勝野の予定の合う火曜を予定。
場所	はまどま
年間スケジュール	年間 8 回（9、10、11、2、3、4、5、6 月予定）
一般募集の有無	有
参加費の有無	高校生以上 2,000 円（会員 1,800 円）、小学生 500 円、中学生 1,000 円
収入見込額(a)	参加費　160,000 円　2,000×10 人
支出見込額(b)	はまどま運営費　40,000 円　500 円×10 人×8 回 食材等　110,000 円 雑費　10,000 円 計　160, 000 円
収支見込額(a-b)	0 円
備考	
作成年月日	2018 年 8 月 20 日
作成者名	勝野真美

■NORA 第 19 期プロジェクト計画書(2018 年 7 月～2019 年 6 月)

プロジェクト名	もったいないから竹細工
カテゴリー	ムラ
リーダー	下山康博
スタッフ	講師:山口和美　アシスタント:小田切一郎・小林準治・只野和晴・松坂義之・三宅健也
目的	・竹林整備で排出された竹材を有効活用する ・竹材から竹ひごを製作し、竹籠などの竹細工を作る ・竹材の価値を見出すことで、竹林整備への人員を誘う
目標	・新規を含めた参加者の継続的な関わりを推奨する ・参加者のスキルアップ(材料の製作から運営を意識できるメンバーの育成を含む) ・竹ひご作りの簡易方法を練り、参加者の定着と増加を図る ・参加者を増やす事で、安定的な事業の実施を図る
内容	竹かご教室:7 作品(全 12 回)にて一区切りをつけ、修了後は工房作業への参加を促す 竹細工工房:竹ひご作りの練習や竹かご製作、カトラリー作り等 WS を行う いちねん坊主工房: 一つ嗜好性の高い作品を、竹ひごの準備から一年かけて製作する
日時	毎月第 2 土曜日(いちねん坊主工房)10:00～12:00 (竹かご教室)13:00～17:00 毎月第 1 水曜・第 2 木曜・第 3 土曜日(竹細工工房) 9:30～12:00/13:00～16:00
場所	はまどま
年間スケジュール	
一般募集の有無	有：定員 10～12 名 (NORA メルマガ・HP などの広報媒体で一般募集)
参加費の有無	1,000～2,500 円
収入見込額(a)	参加費(竹かご教室)　192,000 円　2,000 円×8 人×1 回×12 か月 参加費(竹細工工房)　432,000 円　2,000 円×6 人×3 回×12 か月 物品販売　56,000 円 計　680,000 円
支出見込額(b)	講師謝金　180,000 円　15,000 円×12 管理費　360,000 円　30,000 円×12 賃借料　119,000 円　17,000 円×7 物品費　21,000 円 計　680,000 円
収支見込額(a-b)	0 円
備考	
作成年月日	2018 年 8 月 23 日
作成者名	下山康博

■NORA 第 19 期プロジェクト計画書(2018 年 7 月～2019 年 6 月)

プロジェクト名	はまどまで土間仕事
カテゴリー	ムラ
リーダー	勝野真美
スタッフ	
目的	・季節の手作り保存食品以外にも、いつも買うものを家で気軽に、手作りで味わう。 ・野菜市で買えるもので作れれば、なお良し。自分自身も勉強の場にも。
目標	季節と暦に合わせた企画を作る。自分の生活の中で、活かせるものを中心に。
内容	神奈川産の素材を使って季節の保存食を作っていく。
日時	2 か月に1回程度
場所	はまどま
年間スケジュール	ほかのイベントと重ならない日
一般募集の有無	有
参加費の有無	作るものによって値段が違うが、概ね 3,000 円～5,000 円
収入見込額(a)	参加費　105,000 円　3,500 円×5 人×6 回＝17,500 円
支出見込額(b)	消耗品費　84,000 円 はまどま運営費　21,000 円　500 円×7人×6 回
収支見込額(a-b)	0 円
備考	

作成年月日	2018 年 8 月 20 日	作成者名	勝野真美

■NORA 第 19 期プロジェクト計画書(2018 年 7 月～2019 年 6 月)

プロジェクト名	季節の素材でワンプレートメイキング
カテゴリー	ムラ
リーダー	山本美香
スタッフ	勝野真美
目的	・火曜日のNORA野菜市と連動させることで、野菜市のお客さんや、ご近所さんも常連に引き込みつつ、NORA の活動にも興味を持ってもらう。 ・旬の神奈川野菜をスイーツや独自のレシピを展開することで、野菜や果物の新たなる可能性を味わってもらい、購入にも結び付ける。
目標	・季節の神奈川野菜の。おがずではなくスイーツとしての美味しい食べ方の提案。 ・家でもできるレシピ等、素材にも注目してもらえる企画も用意する。
内容	NORA 野菜市で販売している旬の神奈川野菜や果物を使い、メニューを決め、ある程度までスイーツを作っておき、最後の仕上げを、参加者がひと手間加える。 ワンプレートのお皿の上で、絵の具のパレットのように目にも舌にも美味しい1皿を作る。
日時	2 か月に1回、山本の予定に合わせた火曜日
場所	はまどま
年間スケジュール	
一般募集の有無	有
参加費の有無	大人 2, 000 円(会員 1,800 円)、中学生 800 円、小学生 500 円、未就学児無料
収入見込額(a)	参加費　129, 000 円　(1,800 円×5＋2,000 円×5＋500 円×5)×6 回
支出見込額(b)	はまどま運営費　45,000 円　500 円×15 人×6 回 消耗品費　84,000 円 計　129, 000 円
収支見込額(a-b)	0 円
備考	

作成年月日	2017 年 8 月 10 日	作成者名	勝野真美

■NORA 第 19 期プロジェクト計画書(2018 年 7 月～2019 年 6 月)

プロジェクト名	身近な素材で簡単おいしい薬膳ごはん
カテゴリー	ムラ
リーダー	内倉和子
スタッフ	勝野真美
目的	・難しいと思われがちな薬膳を、身近な素材であればあるほど本当はできる！ということを伝えていく。 ・薬膳の要素と、神奈川野菜の組み合わせを存分に味わう。
目標	季節を少し先取りした薬膳の効果を打ち出し、女性にも男性にもやさしい献立を1つでも取り入れてもらう。
内容	薬膳料理教室のメニューをもとに、神奈川野菜と旬の素材を使って献立を作る。 料理から参加と食べるだけメンバーを設けて、気軽に参加できるようにしている。
日時	月1回、リーダーの予定に合わせた日曜日(上映会と同じ日)の 10:00～14:00
場所	はまどま
年間スケジュール	月1回、内倉の予定に合わせた日曜日
一般募集の有無	有
参加費の有無	作る人、食べるだけの人も共通：2,500 円（会員 2,000 円） 未就学児対象のハーフサイズ：1,000 円 ※前売り回数券 5 回分(有効期限 1 年)：10,000 円
収入見込額(a)	参加費　125,000 円　2,500 円×5 人×10 回
支出見込額(b)	消耗品費　100,000 円 はまどま運営費　25,000 円 計　125,000 円
収支見込額(a-b)	0 円
備考	
作成年月日	2018 年 8 月 20 日
作成者名	勝野真美

■NORA 第 19 期プロジェクト計画書(2018 年 7 月～2019 年 6 月)

プロジェクト名	お香のてならい
カテゴリー	ムラ
リーダー	粕谷恵(静流)
スタッフ	
目的	・お香を通して自然界の恵み(思考)が人の持つ本来の力をあげてゆくことを感じてもらう ・地球、自然からいただく恵みにより、調和や循環を感じてもらう。
目標	・お香本来の世界観とその原材料である香原料(里山に自生する野草、木々、花など)との関わりを目に見える形にして伝える。 ・里山の植物から香原料づくり、今年は川井緑地等で採取してみたい。
内容	・天然自然の原料でお香(匂い袋、線香、塗香、練香など)の手作り体験をしていただく。 ・お香づくりを通して、心身の調和を感じていただけると、なおよい。
日時	金曜日の夜の時間帯 18:00～20:00(18:30～20:30) 他の曜日も不定期に開催希望。
場所	はまどま
年間スケジュール	月4回×12 か月=48 回+α
一般募集の有無	有
参加費の有無	有
収入見込額(a)	
支出見込額(b)	
収支見込額(a-b)	
備考	
作成年月日	2018 年 8 月 20 日
作成者名	粕谷恵

プロジェクト名	里山の恵み・伝統文化と出会う上映会
カテゴリー	ムラ
リーダー	三好豊、中川美帆(郷土映像ラボラトリー)
スタッフ	
目的	・日本列島で受け継がれてきた生活の技術、自然との関わり、祭祀などの記録映像を鑑賞し、話し合うことを通して、現代の暮らし方を考える一助にとする。
目標	・1日の上映回数1～2 回につき、観客数を 10 名以上。 ・「～観る会・広げる会」的な、コアメンバーの加入。
内容	・原則的には、民族文化映像研究所製作の作品を定期上映する。 ・昼の部の懇談会ではおやつ、夜の部では夕食を「神奈川野菜」を使って提供する。
日時	毎月第 4 日曜日、昼の部は午後 3 時開場、3 時半上映開始 夜の部は、午後 6 時開場、6 時半上映開始を原則とする。
場所	はまどま
年間スケジュール	7/22(日)、8/27(月)、9/30(日)、10/28(日)、11/25(日)、 1/27(日)、2/24(日)、3/24(日)、4/27(日)、5/25(日)、6/22(日)
一般募集の有無	有
参加費の有無	有
収入見込額(a)	参加費　90, 000 円　2000 円×5 人×9 回
支出見込額(b)	はまどま運営費　9,000 円 消耗品費　81,000 円 計　90,000 円
収支見込額(a-b)	0 円
備考	郷土映像ラボラトリーとの共催

作成年月日	2018 年 8 月 19 日	作成者名	三好豊

■NORA 第 19 期プロジェクト計画書(2018 年 7 月～2019 年 6 月)

プロジェクト名	紙芝居と民話の部屋
カテゴリー	ムラ
リーダー	三好豊
スタッフ	
目的	近代以降、生活様式の変化とともに失われていったものに民間伝承されてきた「民話・伝説」がある。かろうじて聞き書きとして文字に残されたものを、再び、語りの世界に甦らすことを目的とする。日本固有の紙芝居も併せて取組みたい。
目標	・親子やキッズクラブ、子ども会などと連携して「遊び場」を作り出す。 ・稽古をする機会を定期的に作る。 ・同好のメンバーを増やす。
内容	特に民話について勉強を進めたい。
日時	毎月第 3 土曜日午後 3 時～9 時を原則とする。
場所	はまどま
年間スケジュール	
一般募集の有無	有
参加費の有無	無
収入見込額(a)	
支出見込額(b)	
収支見込額(a-b)	
備考	キッズクラブ・子ども会・子ども食堂などと連携をはかる。

作成年月日		作成者名	

■NORA 第 19 期プロジェクト計画書(2018 年 7 月～2019 年 6 月)

プロジェクト名	大人の文庫 宮沢賢治再読(仮題)		
カテゴリー	ムラ		
リーダー	石村裕子		
スタッフ			
目的	・働いたり、育児、介護に追われる大人を対象に日常を離れる。 ・自然や脳に思いを馳せ、ファンタジーに触れ、自分回帰の時間をつくる。 ・ハーブティーなどを楽しみながら、読み聞かせつつリラックスを味わう。		
目標	・大人が日常を離れ癒される時間の提供 ・宮沢賢治作品から自然や農へ繋がる窓口となる ・テキストを使い、通り一編の宮沢賢治像から視点を深めてもらう ・NORA をPRし、ファン、会員の確保		
内容	石村の学生時代のゼミ内容をベースに当時の教授の著書をテキストに用い、他にない視点からの宮沢賢治論を伝えると共に、お互いにお茶を飲みながら、リラックスした雰囲気の中で読み聞かせ、コミュニケーションし合う心地よさを体験してもらう。		
日時	土曜日 19 時～21 時		
場所	はまどま		
年間スケジュール	1～3 月までに 4 回開催		
一般募集の有無	有		
参加費の有無	500 円(定員 6 人)		
収入見込額(a)	参加費 12, 000 円 500 円×6 人×4 回		
支出見込額(b)	はまどま運営費 3,000 円 消耗品費 9,000 円 コピー代、茶菓代、雑費 計 12,000 円		
収支見込額(a-b)	0 円		
備考	岩波文庫版『銀河鉄道の夜』、『風の又三郎』は各自用意してもらう。		
作成年月日	2018 年 8 月 19 日	作成者名	石村裕子

■NORA 第 19 期プロジェクト計画書(2018 年 7 月～2019 年 6 月)

プロジェクト名	はまどまから行く森林浴(仮題)		
カテゴリー	ムラ		
リーダー	石村裕子		
スタッフ	2～3 名		
目的	・都市生活で疲れた心身をリフレッシュする。自分を見つめる。 ・里山の生活や緑のある生活を知る。植物を知る。		
目標	・はまどまを起点に近郊の森を知る。 ・保全活動とは違ったポイントで森を身近に感じてもらう。 ・プログラムを作成し、森林浴を味わい、心身の開放してもらう。 ・森林によるセルフケアの方法を知ってもらう。		
内容	・新治市民の森や金沢区の市民の森などをはじめとして、ウォーキング、自然観察などの癒しの森林プログラムを行う。		
日時	平日又は週末で 9:30 はまどま出発、17:30 前後はまどま解散		
場所	はまどま～近郊森林浴スポット～はまどま		
年間スケジュール	年 2 回 春、秋開催		
一般募集の有無	有		
参加費の有無	3,000 円(定員 6～10 人)、参加者の交通費は別途自己負担		
収入見込額(a)	参加費 36,000 円 3,000 円×6 人×2 回		
支出見込額(b)	はまどま運営費 8,000 円 ガイド代 10,000 円 消耗品費 20, 000 円 ガイドコピー代、雑費など 計 36,000 円		
収支見込額(a-b)	0 円		
備考	新治里山公園、横浜市緑の協会からの協力 森林セラピストに講師依頼(森林療法協会、森林セラピーソサエティ等と連携)		
作成年月日	2018 年 8 月 19 日	作成者名	石村裕子

■NORA/第 19 期プロジェクト計画書(2018 年 7 月～2019 年 6 月)

プロジェクト名	旬の里山探訪		
カテゴリー	イキモノ		
リーダー	吉武美保子		
スタッフ	新治里山公園運営プロジェクトのメンバー (新治里山「わ」を広げる会への協力)		
目的	新治の自然の魅力をその折々に伝えることで、大切に思う仲間を増やすこと。		
目標	・新たなメンバーが加わって、スタッフとして対応できるようになること。 ・新たなテーマに取り組み、IPの技術をひとつでもあげること。		
内容	午前中 2 時間程度のルートで、テーマに沿った解説を行いながら、散策する。 スタッフは 2～3名。		
日時	毎月第 1 水曜。 午前 10 時～12 時		
場所	にいはる里山交流センター集合		
年間スケジュール	8 月、1 月はお休み		
一般募集の有無	有		
参加費の有無	200 円		
収入見込額(a)	にいはる里山交流センター事業への協力のため、NORA への収入はなし。		
支出見込額(b)			
収支見込額(a-b)			
備考	新治里山「わ」を広げる会／新治里山公園運営プロジェクトへの協力		
作成年月日	2018 年 8 月 20 日	作成者名	吉武美保子

■NORA 第 19 期プロジェクト計画書(2018 年 7 月～2019 年 6 月)

プロジェクト名	横浜市保育所・小中学校等ビオトープ整備等指導業務		
カテゴリー	受託		
リーダー	島村雅英		
スタッフ			
目的	・ビオトープ整備または整備検討している市内の保育所、幼稚園及び小中学校に対する整備・維持管理・活用法の指導 ・適切なビオトープの整備と整備後の維持を		
目標	・訪問指導の実施回数は新規 20 回、フォローアップ 15 校		
内容	・ビオトープ整備指導及び整備後の管理等の受託者に対し訪問指導		
日時	契約日から 2019 年 3 月 15 日まで		
場所	市内の保育所、幼稚園及び小中学校等		
年間スケジュール	7 月～3 月:訪問指導 3 月:報告書作成、次年度計画の提案		
一般募集の有無	無		
参加費の有無	無		
収入見込額(a)	受託事業収入　984,960 円(内消費税 72,960 円)		
支出見込額(b)	委託料　785,000 円 管理費　199,960 円		
収支見込額(a-b)	0 円		
備考	横浜市環境創造局みどり推進課からの受託事業		
作成年月日	2018 年 8 月 20 日	作成者名	島村雅英

プロジェクト名	長浜公園トンボ池管理等業務
カテゴリー	受託
リーダー	島村雅英
スタッフ	
目的	・長浜公園、富岡公園、本牧市民公園のトンボ池における生物多様性保全のための適正な維持管理 ・長浜公園内の竹林の適正管理 ・市民に対する環境意識向上のための啓発事業の実施
目標	・トンボ池管理をとおした生物多様性保全環境の創出 ・トンボフォーラムとの連携による臨海部のエコロジカルネットワーク創出
内容	・長浜公園におけるトンボ池の維持管理の実施 ・普及啓発事業の実施、田植え体験、ヤゴ救出の実施、稲刈り体験 ・長浜公園、富岡総合公園におけるトンボとり大作戦の開催 ・竹のチップ化作業
日時	2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日
場所	長浜公園、富岡総合公園、本牧市民公園
年間スケジュール	トンボ池の維持管理:4 月～3 月田んぼ管理／6 月田植え／11 月収穫 普及啓発:6 月田植え体験、ヤゴ救出作戦／10 月稲根刈り／11 月脱穀 生物調査:7 月～10 月トンボ調査(各公園月 1 回、のべ 12 回)
一般募集の有無	有 (近隣小学校にチラシ配布)
参加費の有無	無
収入見込額(a)	①長浜公園トンボ池管理等 950,400 円(税込) ②竹林整理、管理作業 486,000 円(予定) ③本牧市民公園とんぼ池環境管理 993,600 円(税込) 計 2,430,000 円(税込)
支出見込額(b)	委託料: 1,472,000 円 調査等謝金 150,000 円 チラシデザイン印刷 150,000 円 資機材購入 70,000 円 機材リース料 150,000 円 チッパー 一般管理費 438,000 円 計 2,430,000 円
収支見込額(a-b)	0 円
備考	横浜市緑の協会からの受託事業

作成年月日	2018 年 8 月 20 日	作成者名	島村雅英

■NORA 第 19 期プロジェクト計画書(2018 年 7 月～2019 年 6 月)

プロジェクト名	野島公園ビオトープ池の環境改善提案に向けた生物調査
カテゴリー	イキモノ
リーダー	島村雅英
スタッフ	
目的	・野島公園ビオトープの環境改善の提案
目標	・多様な生物が生息する環境を創出する計画づくり
内容	・野島公園ビオトープの、環境(植物、水生生物、水環境)調査 ・環境改善計画案
日時	2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日
場所	野島公園
年間スケジュール	4 月～9 月:環境調査 10 月:報告書作成
一般募集の有無	無
参加費の有無	無
収入見込額(a)	受託事業収入 496,800 円(内消費税 36,800 円)
支出見込額(b)	委託料 306,800 円 調査等謝金 120,000 円 一般管理費 70,000 円 計 496,800 円
収支見込額(a-b)	0 円
備考	横浜市緑の協会からの受託事業

作成年月日	2017 年 8 月 9 日	作成者名	島村雅英

プロジェクト名	Green Gift 地球元気プログラム		
カテゴリー	受託		
リーダー	松村正治		
スタッフ	塚原宏城(一般社団法人まちやま)、島村雅英		
目的	・自然と共に生きる里山での暮らしを体験し、理解を深める。里山の生きものを見つめるまなざしが深くなり、大切にする気持ちを持つ。 ・多様なステークホルダーの関係性が深まり、人・もの・お金・情報が共有化されることによって、将来的にプログラムを自立的に運営するビジョンが描ける。 ・小松・城山地区を訪れたいと思うファン、リピーターが増える。里山を守る新しい地域の担い手が現れる。		
目標	・参加者数は 2 回でのべ 80 名以上。 ・持続的に地域の里山を保全していく仕組みを提案する。		
内容	親子向け環境教育プログラムを 2 回開催する。		
日時	休日		
場所	城北センターおよび小松・城北地区の里山		
年間スケジュール	4～5 月:第 2 回プログラム実施 6 月:第 2 回プログラム実施		
一般募集の有無	有		
参加費の有無	無		
収入見込額(a)	寄附金	600,000 円	東京海上日動火災(株)から
支出見込額(b)	人件費	140,000 円	
	業務委託費	180,000 円	
	謝金	90,000 円	
	消耗品費	40,000 円	食材ほか
	広告宣伝費	70,000 円	デザイン制作、印刷費
	一般管理費	80,000 円	
	計	600,000 円	
収支見込額(a-b)	0 円		
備考	株式会社かんぽ生命保険からの寄付金を活用		
作成年月日	2018 年 8 月 20 日	作成者名	松村正治

■NORA 第 19 期プロジェクト計画書(2018 年 7 月～2019 年 6 月)

プロジェクト名	環境教育出前講座		
カテゴリー	イキモノ		
リーダー	島村雅英		
スタッフ			
目的	・環境教育出前講座をとおした、里山の生態系の知識の普及		
目標	・市内小中学校 10 校で実施		
内容	・横浜市環境創造局が実施する環境教育出前講座に登録し、学校の要請に応じて出前講座を実施する		
日時	2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日		
場所	横浜市内の小中学校		
年間スケジュール	小中学校からの要請によって実施 10 校程度		
一般募集の有無	無		
参加費の有無	無		
収入見込額(a)	雑収益	120,000 円	謝礼 12,000 円×10 回
支出見込額(b)	講師謝金	100,000 円	10,000×10 回
	一般管理費	20,000 円	
	計	120,000 円	
収支見込額(a-b)	0 円		
備考	横浜市環境創造局政策課		
作成年月日	2018 年 8 月 20 日	作成者名	島村雅英

■NORA 第 19 期プロジェクト計画書(2018 年 7 月～2019 年 6 月)

プロジェクト名	里山とかかわる暮らし～街なかで集う「土間づくり」プロジェクト
カテゴリー	ムラ
リーダー	三好豊
スタッフ	寄り合いに集う人びと
目的	・里山(地域の自然や文化)と暮らしをキーワードとしながら、地域・さまざまな人・団体の活動場所として主たる事務所である「はまどま」を開放し、地域の居場所づくりのモデルとなることを目指す。
目標	・地域の住民が気軽に「はまどま」に立ち寄れるようにして、里山の魅力を都市住民に伝えていくこと。 ・蒔田地区全体では住民が集まることのできる場が少ないことから、「はまどま」を有効に活用してコミュニティづくりに貢献すること。
内容	①地域へ開くためのワークショップの開催 NORA 会員のほか、蒔田地区住民の一部、宮宿花 1・2 丁目町内会、蒔田公園愛護会、睦地域ケアプラザ、子ども食堂など地域のキーパーソン・関係団体と連携しながら「はまどま」の改修計画および改修後の運営計画を立てる。 ②「はまどま」の改修 NORA が実施してきた活動を継続しつつ、地域住民にとって使いやすいようにするために空間を改修する。 ③暫定「土間開き」の実施 イベントや会議の時だけしか人がいない状況が長く続いていたので、日中に開く日をPRし、地域ニーズや声を拾い、運営計画に反映させる。
日時	
場所	はまどま
年間スケジュール	①地域へ開くためのワークショップの開催:9 月～3 月　毎月 1 回×15 人程度 ②「はまどま」の改修:2 月頃　改修工事 ③暫定「土間開き」の実施:週に 1 回程度、日中 3～4 時間
一般募集の有無	無
参加費の有無	無
収入見込額(a)	自己資金　60, 000 円　個人からの寄付金など 助成金　612,000 円　よこはま夢ファンド 計　672,000 円
支出見込額(b)	外注費　350,000 円　水道設備、建具設置等一式 人件費　142,000 円　ワークショップ記録、自主工事、土間開き 消耗品費　180,000 円　修繕用材料、収納・事務用品、軽食など 計　672,000 円
収支見込額(a-b)	0 円
備考	ワークショップには、南区からコーディネーターを派遣してもらう。

作成年月日	2018 年 8 月 26 日	作成者名	松村正治

第４号議案　第19期（2018年7月～2019年6月）予算

［収入］

科目	第17期決算額	*第18期予算額*	第18期決算額	第19期予算額	備　　考
会費	316,000	*380,000*	335,000	370,000	運営会員@12,000*15+一般会員@3,000*50+賛助会員@10,000*4
寄付金	2,555,789	*1,800,000*	1,645,759	1,100,000	かんぽ生保1,000千円、ファンケル、個人寄付
助成金	2,551,400	*1,589,000*	1,919,818	2,050,000	よこはま夢ファンド870千円、セブンイレブン580千円、緑の募金600千円
自主事業収入	1,466,395	*1,800,000*	2,423,979	2,250,000	竹細工680千円、どま他1,000千円（野菜市300千円）、各事業参加費等
販売収入	410,659	*200,000*	65,976	80,000	チェーンソー関連消耗品販売
受託事業収入	5,323,624	*3,000,000*	3,950,128	3,800,000	長浜ﾄﾝﾎﾞ2,430千円、ﾋﾞｵﾄｰﾌﾟ指導980千円、野島調査500千円、GGift600千円
雑収入	169,755	*250,000*	398,993	350,000	『JA広報通信』180千円、環境教育出前講座120千円、講師謝金等
当期収入合計（A）	12,793,622	*9,019,000*	10,739,653	10,000,000	

［支出］

	科目	第17期決算額	*第18期予算額*	第18期決算額	第19期予算額	備　　考
事業人件費	給料手当	0	*0*	0	0	研究員給料
	臨時雇賃金	0	*0*	0	0	
	福利厚生費	0	*0*	0	0	
	法定福利費	0	*0*	0	0	社会保険料、労災保険料
事業経費	事業委託費	4,928,607	*3,600,000*	3,890,959	3,800,000	受託事業、山仕事、デザイン料、外注費
	諸謝金	1,674,114	*1,400,000*	1,116,548	1,200,000	竹細工、講座講師謝礼
	印刷製本費	21,312	*30,000*	85,321	50,000	報告書印刷、コピー代
	会議費	70,154	*15,000*	6,000	10,000	会議室料、茶代等
	旅費交通費	123,230	*100,000*	48,710	60,000	講師旅費
	通信運搬費	6,994	*20,000*	9,038	10,000	郵送料、宅急便、備品送料
	消耗品費	1,298,001	*1,100,000*	2,052,198	2,000,000	チェーンソー等ヤマ道具、工具、はまどま事業経費
	器具備品費	344,200	*250,000*	0	550,000	剥機
	修繕費	0	*40,000*	111,659		
	賃借料	234,796	*200,000*	134,648	200,000	チッパー150千円、レンタカー、会場借上
	減価償却費	55,319	*50,000*	116,157	150,000	簡易製材機、クローラー式運搬車
	保険料	97,602	*100,000*	89,525	100,000	グリーンボランティア保険、イベント保険
	調査研究費	5,504	*40,000*	0	40,000	資料購入、研修会参加
	支払手数料	10,628	*10,000*	11,306	10,000	
	広告宣伝費	0	*10,000*	34,720	30,000	
	販売仕入	329,844	*170,000*	49,842	60,000	チェーンソー関連消耗品仕入
	雑費	5,643	*30,000*	0	10,000	
管理費	業務委託費	100,000	*100,000*	100,000	100,000	経理・決算・納税委託
	通信運搬費	95,162	*120,000*	94,431	100,000	電話・通信、ネット使用料
	消耗品費	34,940	*40,000*	65,172	50,000	会計ソフト等
	水道光熱費	116,923	*140,000*	139,745	120,000	
	地代家賃	972,700	*972,000*	972,000	972,000	家賃@81千円*12
	接待交際費	16,200	*20,000*	0	15,000	
	諸会費	21,900	*20,000*	22,604	20,000	町内会費、ネットワーク団体会費
	租税公課	1,200	*5,000*	200	5,000	
	支払手数料	29,070	*35,000*	31,126	33,000	ネットバンキング25千円、振込手数料
	雑費	517	*5,000*	0	5,000	
経常外	固定資産除却損	0	*0*	0		
	法人税、住民税及び事業税	74,500	*74,500*	74,500		
	当期支出合計（B）	10,669,060	*8,696,500*	9,256,409	9,700,000	
	当期収支差額（A)-(B)	2,124,562	*322,500*	1,483,244	300,000	